

なにごともない、
明日を守る。



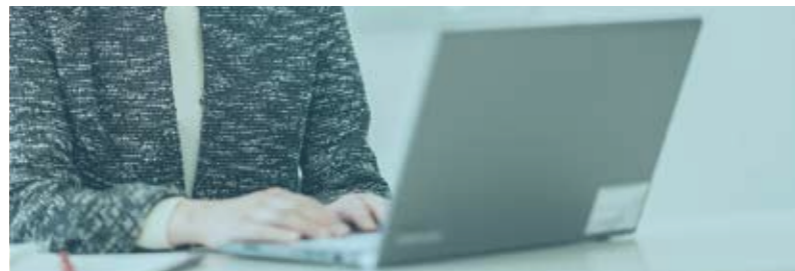
PUBLIC HEALTH DOCTOR

東京都公衆衛生医師募集案内



 東京都

医師 + *a*



リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

260
古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

なにがごともない、
明日を守る。

私たちの仕事は、
都民1,400万人の生命と健康を守ること。

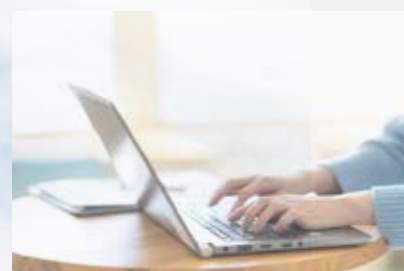
地域の仕組み・ルールづくりを通じて、
多くの人と連携しながら、
住民全体の医療や健康を支えています。

医師としての経験と専門性、そして、
あなたの+ α の力が引き出される仕事です。

東京都では、
保健所や都庁などで公衆衛生医師が働いており、
保健・医療・福祉の幅広い分野で
日々活躍しています。

あなたも、
医師として培った知識と経験を活かして、
公衆衛生のフィールドに
チャレンジしてみませんか。





CONTENTS

□はじめに	01-02
□CONTENTS	03
□活躍するフィールド	05
□福祉保健局技監からのメッセージ	06
■都庁編	07-12
保健政策部	07-08
—健康推進課	07
—疾病対策課	08
医療政策部	09-10
—医療安全課	10
感染症対策部	11-12
—防疫・情報管理課	12
■特別区編	13-14
目黒区保健所	13
世田谷保健所 感染症対策課	14
墨田区保健所 保健予防課	14
■都保健所編	15-17
西多摩保健所	15
多摩立川保健所 保健対策課	16
多摩府中保健所 保健対策課	16
島しょ保健所	17
■保健所政令市	18
町田市保健所	18
■健康安全研究センター	19
■公衆衛生医師の仕事紹介	20-23
学校保健分野	20
新型コロナウイルス感染症対応	21-22
災害時の公衆衛生活動	23
■課長代理級医師の一日	24
■ライフ・ワーク・バランス座談会	25-26
■キャリアサポート(研修制度等)	27-28
■キャリアパス	29-32
■募集案内	33
■よくある質問	34

本パンフレット内に記載されている医師の所属及び組織名称は、2022年12月時点のものであり、異動や組織改正等により変更となる場合もあります。

採用サイト・ムービー公開中

サイトでは、保健所で働く医師に密着した業務紹介動画や、医師へのインタビュー記事をご覧ください。また、業務説明会等のイベント情報も随時発信しています。



採用サイトからお問い合わせ受付中

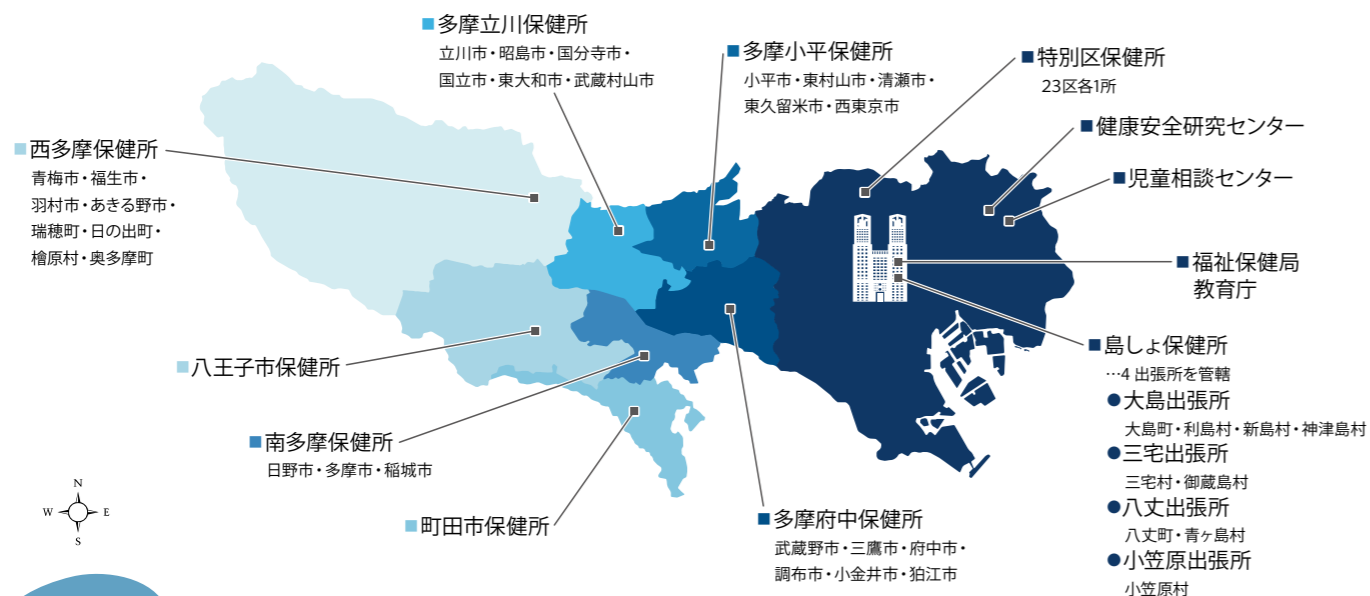
ENTRY →



<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kousyueisei-ishi-saiyou/index.html>

活躍する フィールド

入職後は、主に東京都、特別区(23区)、八王子市(中核市)及び町田市(保健所政令市)の保健所又は本庁に配属されます。通常、数年ごとに異動があるため、幅広いフィールドで様々な業務を経験することができます。



東京都

福祉保健局

本庁

都庁では、都全体の政策を企画・立案しています。本庁に配属された場合、各部の事業について、医師としての立場から幅広い専門知識・技術を基に医学的評価や判断を行います。

また、各事業の企画立案・実施、進行管理を行う行政職としての役割も担い、予算や人員の確保、関係機関との調整、条例の制定等にも携わります。

保健政策部

保健政策の企画調整、健康づくりの推進、難病対策に関することなど

医療政策部

医療政策の企画調整、医療改革の推進、医療施設等許認可・監視指導に関することなど

少子社会対策部

子供・家庭・女性施策の企画調整、子育て支援・母子保健事業、母子医療助成に関することなど

感染症対策部

感染症対策の企画調整、新興・再興感染症対策、疫学的調査に関することなど

健康安全部

健康安全対策の企画調整、アレルギー・花粉症対策、環境衛生施設の衛生対策に関することなど

教育庁

都立学校教育部

都立学校における児童生徒等の健康づくりの総合的な推進、健康教育及び学校保健の総合的計画・実施、学校環境衛生の維持及び改善、学校給食を含む食育の総合的計画・実施など

保健所

西多摩保健所・南多摩保健所・多摩立川保健所・多摩府中保健所・多摩小平保健所・島しょ保健所

地域保健の広域的、専門的、技術的拠点として、精神保健、難病対策、結核・感染症、エイズ対策など専門的な保健サービスや、管内市町村への協力、助言・支援、連絡調整を実施しています。

健康安全研究センター

都民生活の健康と安全を守る健康危機管理対策の科学的・技術的な拠点として、感染症のまん延防止や食品、医薬品、飲用水や生活環境などの安全確保を図るため、監視指導、試験検査、調査研究や新たな健康リスクの評価を行うほか、公衆衛生情報の提供、専門職を対象とした技術研修等を実施しています。

特別区・市

保健所等

千代田区・中央区・港区・新宿区・文京区・台東区・墨田区・江東区・品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・中野区・杉並区・豊島区・北区・荒川区・板橋区・練馬区・足立区・葛飾区・江戸川区・八王子市・町田市

区市の保健衛生業務を担当し、広域的・専門的・技術的拠点として、住民に身近な健康づくり、生活習慣病対策、母子保健、予防接種等の保健サービスを実施しています。このため、区には保健センターなど地域でサービスを提供しているところがあります。

福祉保健局技監 からのメッセージ

公衆衛生医師は、公衆衛生、予防医学の視点に立って 地域住民の健康を支える 行政職の医師です。

成田 友代

- 1992.10 町田保健所予防課主査
- 1993.04 町田保健所保健サービス課課長担当係長
- 1994.04 板橋保健所予防課主査
- 1998.04 国立公衆衛生院派遣
- 1999.04 練馬区板橋保健相談所長
- 2002.04 練馬区保健所予防課長
- 2003.04 中央区保健衛生部(保健所)健康推進課長
- 2006.04 多摩立川保健所保健対策課長
- 2008.04 福祉保健局少子社会対策部子ども医療課長
- 2010.04 福祉保健局健康安全部感染症対策課長
- 2011.04 福祉保健局担当部長(医療政策部医療安全課長事務取扱)
- 2013.04 世田谷保健所長
- 2015.04 福祉保健局担当部長
- 2015.07 福祉保健局医療改革推進担当部長
- 2018.04 福祉保健局保健政策部長
- 2020.09 新型コロナウイルス感染症保健政策担当部長兼務
- 2022.07 福祉保健局技監 教育庁技監
福祉保健局感染症危機管理担当部長 事務取扱

趣味：旅行、読書、野球観戦



誰もがいきいき生活し、活躍できる東京を目指して

WHO(世界保健機関)は、健康について「単に疾病に罹患していないだけでなく、身体的、精神的、社会的に健全であること」と定義しています。この真の「健康」の保持推進のためには、臨床医療だけではなく、社会制度として健康を推進する公衆衛生行政の強化が必要です。例えば、臨床医として働く中で、重症化した患者さんを診察する際に、生活習慣改善、早期発見・早期治療の重要性や、疾病の背景にある社会的な課題を解決する必要性を考えたことはないでしょうか。急速に進展する少子高齢化により医療・介護サービスの需要はますます増大するほか、新型コロナウイルス感染症対策が続く中、社会経済活動との両立や有事における医療提供体制の在り方、生活困窮者等へのセーフティネットの構築など、改めて都民の暮らしに直結する様々な課題が投げかけられています。こうした中で、将来にわたって都民が安心して生活できる社会を実現するためには、中長期的な視点に立って福祉・保健・医療サービスの充実に取り組み、社会経済環境の急激な変化や震災等の緊急・突発的な事態にも迅速かつ的確に対応し、実効性のある施策の展開を図る必要があります。医学的知識や臨床経験に基づき行政で働く公衆衛生医師の役割はますます重要となっています。

東京都では、東京都保健医療計画の下、「誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる『東京』」の実現に向けて保健医療施策を進めています。公衆衛生医師は、生涯にわたり健康に暮らせる環境の実現を目指し、在宅療養環境の整備、救急・災害医療、小児・周産期医療などの医療提供体制の整備、受動喫煙対策など、他職種や関係機関と連携し、施策や事業の推進、住民との協働という行政の立場でアプローチしています。

2020年1月に発生した新型コロナウイルス感染症への対応では、都庁や保健所等に勤務する約100名の公衆衛生医師が、最前線での患者対応や医療体制の構築等の仕組みづくりに尽力し、各職場で重要な役割を担ってきました。東京都では、一つの職場に複数の公衆衛生医師が配置されており、指導・相談体制が整っているため、孤立する心配がない職場です。また、研修制度をはじめとしたサポート体制も充実していますので、公衆衛生行政の経験がない方でも、無理なく働いていただけるかと思います。

感染症対策や地域の健康課題に関心があり、社会に貢献したいという強い意志をお持ちの方、私たちと共に東京都の公衆衛生行政に参画し、ご活躍いただける医師をお待ちしています。大都市東京で、1,400万都民の健康と安全のために、共に働きましょう。

私たち 公衆衛生医師 の役割

公衆衛生医師は、都庁や都内の保健所等に勤務し、地域住民の健康増進や健康危機管理に関わる様々な業務に従事しています。地域保健法はじめ各種の関係法令等に基づいて、感染症対策、生活習慣病・がん予防や健康づくり、母子保健、精神保健、難病対策や医療安全などの保健分野の事業を担当するほか、地域包括ケアや子育て支援などの医療や福祉の分野の施策にも関わっています。

行政で働く公衆衛生医師に求められること

- 医師としての専門性
- 行政職員としての自覚と責任感
- コミュニケーション能力

公衆衛生医師は、医師としての立場から、医学的知識や臨床経験に基づいて事業の評価や判断を行う一方で、事業の企画・立案、調整、実施、進行管理を行う行政職としての役割も担っており、組織の一員として、保健師、栄養士、薬剤師などの医療系専門職や事務職員と力を合わせて仕事を進めていきます。また、施策の実現に当たっては、関係部署や関係機関等の協力、理解が得られるよう、的確に分かりやすく説明する能力、調整する能力も求められます。

複数のポストを経験し、将来は、組織の管理職や保健所長として、公衆衛生行政における指導的な役割を担っていきます。



profile

渡部 ゆう

- 2007.01 江東区城東南部保健相談所医療担当係長
- 2007.04 江東区健康部(保健所)保健予防課医療担当係長
- 2010.04 福祉保健局健康安全部感染症対策課 新型インフルエンザ対策担当係長
- 2013.04 国立保健医療科学院派遣
- 2014.04 足立区竹の塚保健総合センター長 江北保健総合センター長兼務
- 2015.04 新宿区健康部(保健所)保健予防課長
- 2017.04 千代田区保健福祉部(保健所)健康推進課長
- 2018.04 多摩立川保健所保健対策課長
- 2021.04 福祉保健局保健政策部疾病対策課長

入職前の経歴：地方の基幹病院で内科系臨床研修医として勤めた後、麻酔科で勤務

趣味：旅行、食べ歩き

橋本 智央

- 2022.04 福祉保健局保健政策部疾病対策課長代理 (難病対策医療担当)

社会医学系専門医制度「TOKYOプログラム」専攻医1年目です。

好きなアーティスト：Every Little Thing
尊敬する人：三国志の鄧艾



profile

難病患者等への支援

難病は、原因不明で治療が確立されておらず、長期の療養を必要とします。東京都では、難病法に基づき医療費助成や療養生活の支援を行っていますが、都独自の施策も展開しています。例えば、医療費助成制度では、国に先駆けて対象疾病を拡大しており、難病法で指定されない疾病についても助成しています。また、拠点病院・協力病院などの難病医療ネットワークにより、早期診断から地域での療養生活支援までの切れ目のない医療提供体制の構築を目指しています。

疾病対策課では、この他にもウイルス肝炎対策、献血などの血液対策、臓器移植対策、被爆者援護なども担当しており、臨床に密接な疾病対策という分野で、幅広く都民の生命と健康を守る業務に携わることができます。

希望者へのメッセージ

公衆衛生医師は、保健・医療・福祉の様々な分野に幅広く関わることのできる仕事です。その中には、きっとみなさんが強く興味を抱く分野があると思います。都庁でも保健所でも、分野や担当地域が違って、業務の課題や地域の特性を洗い出し、その解決のため力を尽くすという姿勢が基本にあり、私はそんな課題解決の過程にやりがいを感じています。

特に、東京都ならではの各分野における第一線の専門家とコラボレーションしたり、他職種の職員など多くの人と協力することによって、チームで大きな施策や仕組みをつくり上げた時の達成感は、臨床ではなかなか得難いものです。

そんな経験が得られる公衆衛生の世界に飛び込んでみませんか？

臨床と行政の橋渡しになり、難病患者さんを救う

難病法は、長期の療養が必要な患者さんに対して、療養環境整備のための医療費を助成する制度などを定めています。とはいえ、医療費助成制度は、認定基準が客観的かつ厳格であるため、臨床の現場で難病と診断された患者さんの全てが認定されるわけではありません。私は臨床と行政の橋渡しをしており、主治医や医療機関に対して情報提供や内容の問い合わせを行っています。そして、毎月の難病認定審査会で患者さんが適切に認定されるよう力を尽くしています。時に主治医や患者さんからお叱りや苦情を受けることもありますが、難病患者さんの助けとなるよう、日々職務に尽力しています。

公衆衛生医師になったきっかけ

初期臨床研修を通じて、マクロな目で社会全体を見る医師の必要性を感じ、健康な人を増やすことに力を尽くしたいと思ったことがきっかけです。また、公衆衛生医師はライフ・ワーク・バランスを保ちながら働き続けることができ、息の長い仕事で社会に貢献できると考えました。

令和のアマビエ！公衆衛生医師の醍醐味

私は若輩の医師ながら、東京都の組織のおかげで数千倍のレバレッジがかり、都民のみなさまに貢献する仕事ができていると感じます。1人の医師が前向きに仕事をすれば、ベテラン職員さん、多くの医療関係者、都民の方々もみな協力してくれます。組織として大きく動き、最大の力が発揮できます。そのことにより、病気になる人を少しでも減らせれば、これこそ公衆衛生医師冥利につきます。夢は大きく、令和のアマビエを目指しています。

誰もが健やかで
こころ豊かに活躍できるように。

健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されます。今後、医療技術の進歩により、ますます平均寿命の延伸が予測される中、健康寿命の延伸は、生涯にわたる個人の生活の質を向上させるとともに、社会保障費の軽減にもつながります。

福祉保健局保健政策部では、「健康寿命の延伸」を目指して、地域・職域における健康づくり、生活習慣病・がん予防対策を支援するとともに、受動喫煙対策や自殺対策、難病やウイルス肝炎などの疾病対策、医療費助成や在宅難病患者の療養支援など幅広い保健施策に取り組んでいます。また、社会保障の充実・安定のため、国民健康保険制度や後期高齢者医療制度の健全な運営支援を行っています。

保健政策部は、保健政策課、健康推進課、疾病対策課、医療助成課及び国民健康保険課の5課体制であり、また事業所として多摩や島しょ地域の6保健所を所管しています。公衆衛生医師は、保健政策課、健康推進課、疾病対策課に配置され、各課において、専門知識を活用して、新規事業の企画・調整、計画の策定、医療費助成の審査、区市町村や関係機関への指導や助言などの業務に従事しています。また保健師、栄養士などの専門職、事務職員とも連携し、「子供や高齢者、障害者をはじめ、誰もがいきいきと生活できる、活躍できる都市・東京」の実現を目指して取り組んでいます。



左から、渡部ゆう、播磨あかね、橋本智央

健康推進課

profile

播磨 あかね

- 2007.05 福祉保健局保健政策部疾病対策課課長担当係長
- 2008.04 西多摩保健所保健対策課感染症対策担当係長
- 2009.04 多摩府中保健所保健対策課担当課長
- 2010.07 福祉保健局指導監査部指定医療機関担当課長
- 2013.04 多摩府中保健所保健対策課長
- 2015.04 福祉保健局少子社会対策部事業推進担当課長
- 2016.04 福祉保健局保健政策部疾病対策課長
- 2017.04 港区みなと保健所参事 保健予防課長事務取扱
- 2018.04 西多摩保健所長
- 2022.04 福祉保健局保健政策調整担当部長

入職前の経歴：臨床医として、血液内科で勤務

趣味：温泉旅行、山登り(ハイキング)

希望者へのメッセージ

都民の健康のため、保健師や歯科医師、薬剤師、歯科衛生士、栄養士、衛生監視員、事務職など、様々な職種の方々と共に、いろいろな施策を考えたり、自分たちが打ち出した取組を実施したりしています。産みの苦しみはありますが、とてもワクワクする楽しい経験です。医師法の第一条には、「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」とあります。ぜひ私たちと一緒に、医師の本分である、公衆衛生の向上や増進に寄与する仕事をしてみませんか。



profile

坪井 博文

2021.04 福祉保健局医療政策部医療安全課長
2022.04 感染症対策部酸素・医療提供ステーション
運営担当課長兼務

趣味：料理、ワイン(J.S.A.ワインエキスパート)

希望者への
メッセージ

医療の根幹を担う ～医学知識と現場感覚が役立つ職場～

医療安全課は、医療法、臨床検査技師等法及び死体解剖保存法を所管し、医療法人の認可、病院の開設許可及び指導を所掌するほか、東京都監察医務院を所管しています。医療事故や病院(医療法人)の経営危機などが発生した場合は、迅速かつ適切な措置を講じて安心・安全な医療提供体制を確保します。

医療安全課の公衆衛生医師は、医学的知識や臨床経験を活用して病院・医療法人等に専門的な指導を日々行っており、誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる『東京』の実現に向けて尽力しています。

東京都における医療安全の推進について

医療安全の確保は最も重要な課題であり、東京都では「東京発医療改革」のスローガンの下、2002年度に全国で初めて「医療安全課」を設置しました。「患者の声相談窓口」では全国最多となる年間約1万件の患者・都民からの相談等に対応し、医療機関等との信頼関係の構築を支援しています。



「世界患者安全の日」都庁舎ライトアップ

問題点を発見し、関係者の理解を得て、解決を目指すプロセスは、臨床現場と似ています。プロジェクトを任せられることで社会医学や行政マネジメントも習得可能。人類が未経験のこれからの超高齢社会にふさわしい、東京独自で新しい医療の仕組みを築いてみませんか？

病院の適正な運営管理の確認 ～医療安全の視点から～

病院の運営管理には医療法及び関係法令や通知で定められた内容を守ることが必要です。医療安全課指導担当では立入検査を行い、病院が規定された人員及び構造設備を有し、適正な管理を行っているか否かについて確認をしています。不備が認められた場合には病院に対して指摘及び指導を行います。さらに、各病院が法令や通知に定められた内容を効率よく確認し、適切な病院管理を実施できるよう「病院管理の手引」を作成しています。病院自らがより適切に医療安全体制を整備できるよう、公衆衛生医師もその一員として専門的な指導を行っています。

仕事をしながら学ぶ行政の仕組み

多くの方は公衆衛生が専門で入職するわけではありませんので、最初から行政の仕組みを理解している方は少ないかと思います。そのため、実際に仕事ができるか心配される方も多いのではないのでしょうか。事業は自分一人で全て実施するわけではありません。新しいことを吸収することは大変な一面もありますが、私もこれまで周囲の人に助けられながら、理解し、実務を行ってきた経緯があります。



これまで保健所、本庁の感染症業務、医療安全業務を担当してきました。数年ごとに異動がありますので、様々な分野や地域の視点から業務を遂行することができます。実際の業務で地域全体に関わる事業の一端を担い、それが運用された際には達成感があります。臨床現場とは異なりますが、東京の行政の視点から医療を考える仕事をしてみませんか？

希望者への
メッセージ



profile

小池 義明

2020.04 台東区健康部(保健所) 保健予防課保健予防担当係長
2021.04 福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課 課長代理(感染症対策調整担当)
2022.04 福祉保健局医療政策部医療安全課課長代理 (指導担当)

入職前の経歴：臨床研修修了後に入職

趣味：風景撮影

医療政策部では、がん対策や救急医療、在宅療養、人材育成など、東京の医療の課題解決に向け、迅速かつ的確に取り組んでいます。

小竹 桃子

2000.09 板橋区健康福祉センター医科主査
2002.06 板橋区健康生きがい部(保健所)予防対策課医療主査
2003.04 健康局医療サービス部感染症対策課課務担当係長
2004.04 練馬区大泉保健相談所長
2006.04 港区みなと保健所健康推進課長
2009.04 荒川区健康部(保健所)健康推進課長
2013.04 福祉保健局少子社会対策部事業推進担当課長
2015.04 福祉保健局医療政策部医療安全課長
2016.04 台東区健康部(保健所)参事 保健予防課長事務取扱
2017.04 南多摩保健所所長
2018.04 台東区台東保健所長 健康部保健サービス課長事務取扱
2021.04 福祉保健局医療改革推進担当部長
2022.04 新型コロナウイルス感染症医療政策担当部長兼務

入職前の経歴：臨床医として、消化器内科で勤務
趣味：読書 座右の銘：「継続は力なり」

profile



誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる「東京」の実現を目指して

東京都では2016年に地域医療構想を策定し、「誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる『東京』」の実現を目指して、
①高度医療・先進的な医療提供体制の将来にわたる進展
②東京の特性を生かした切れ目のない医療連携システムの構築
③地域包括ケアシステムにおける治し支える医療の充実
④安心して暮らせる東京を築く人材の確保・育成
の4つの基本目標を掲げています。また、社会経済環境や医療環境の変化等、喫緊の課題や新型コロナウイルス感染症の流行等により生じた新たな課題に迅速かつ的確に対応するため、医療機関や関係団体等と連携しながら、効率的で質の高い医療提供体制を確保していく必要があります。

公衆衛生医師は、医療改革推進担当部長と、医療安全課に配置されています。医療改革推進担当部長は、部全体の医療改革推進に関する仕事を職務として、在宅療養や医療連携の推進、医療人材の確保養成、小児・周産期医療等の施策を担当しています。医療安全課には、課長と課長代理(係長)が配置され、医療施設等許認可、監視指導、患者の声相談窓口等、都民が安心して医療サービスを受けられる体制の整備に取り組んでいます。

新興感染症等の感染拡大時における医療提供体制の確保や、高齢化の進展に対応した地域包括システムの構築など、新たな課題にも対応が求められており、医療政策部の役割はますます重要になっていくでしょう。

希望者への
メッセージ

医療現場とは違うやりがい

大学卒業後、消化器内科医として臨床で勤務し、がん検診などに携わるうちに、予防医学に興味を持ち、思い切って公衆衛生の世界に飛び込みました。

東京都の公衆衛生医師は、最初は課長代理級として採用され、その後実務経験を経て課長級、そして保健所長へとキャリアアップしていくことになります。管理職になると、組織運営、人事管理などの役割が与えられます。それぞれの職層によって、同じ職場にいても見えている景色がまったく違う、という興味深い経験をしました。組織のマネジメントが楽しいと感じるとは想像もしていなかったのですが、意外に自分に合っていたと思っています。政策の企画・立案、関係機関との調整などは、医療現場とはまた違ったやりがいがあります。行政の医師として、働いてみませんか？

東京都で公衆衛生医師をする醍醐味

東京都に公衆衛生医師として入職すると、数年ごとに自治体を異動します。東京都内、特に特別区は、それぞれの社会資源を活用した、独色の強い事業が行われており、異動するたびに大きな学びがあります。保健衛生行政において、都内の自治体を渡り歩くのは、公衆衛生医師だけでなく、より良い取組を都内に広げていく、という使命があると感じています。異動してすぐは右も左も分らず戸惑いますが、そこで一から人間関係を作り、徐々にその自治体になじんでいく過程に、面白味を感じています。

22年間で本庁及び6つの保健所を経験しましたが、それぞれの自治体での経験や、一緒に働いた仲間は自分の貴重な財産となり、公衆衛生医師を続けていく上で大きな原動力となっています。



profile

カエベタ 亜矢

- 2014.11 健康安全研究センター 企画調整部 健康危機管理情報課疫学情報係長
 - 2015.04 新宿区健康部(保健所)保健予防課医療指導主査
 - 2016.04 福祉保健局健康安全部感染症対策課課長代理(感染症医療担当)
 - 2017.04 新宿区健康部(保健所)保健予防課長
 - 2021.04 福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課長
- 入職前の経歴：1997年～2000年まで小児科診療に従事。2000年～2014年までザンビアにて、国際協力活動として、母子保健、エイズ、結核対策に従事していました。

読んでみたい本：「All About Love: New Visions」著者Bell Hooks

希望者へのメッセージ

防疫・情報管理課の業務

感染症対策部防疫・情報管理課は、感染症対策の所管部署ですが、新型コロナウイルス感染症対策については都庁全体で対応しており、対策の一旦を担っている位置付けです。都内には保健所が31所あるため、複数の保健所が連携して対応する場合の保健所間調整、都外にまたがる広域事例では他府県との調整、また、厚生労働省や国立感染症研究所との連携も重要で、そのために調整も行います。

東京都の公衆衛生医師は、保健所と本庁での勤務を経験します。業務での経験を通じて構築したネットワークを活かして対応ができることは、やりがいを実感できるポイントの一つです。

東京都の公衆衛生医師の魅力は、様々な業務経験ができることだと思います。医師としての経験やスキルを活かすことができる場面もありますが、議会対応や行政での様々な経験などは一から学ぶことも沢山あります。私自身の経験を振り返ってみると、周囲に教えていただいたり、支えてもらうことの方が多かったと思いますが、業務を通じて身につけることができた経験や人脈は貴重な財産です。

公衆衛生医師になりたての頃は、初めてのことも多く、戸惑うことも多いと思いますが、必ず、周囲からのサポートが得られますので安心してください。先輩や同期の公衆衛生医師に加えて、一緒に業務に従事する機会が多い職員の方々(保健師、事務職、衛生監視員等、多職種の方々)から学ぶ部分も大きいと思います。現場対応では働きながらOJTとして学ぶ貴重な機会が得られます。特に、住民の方々への対応、ステークホルダーとの調整や連携については、業務での経験を積み重ねる中で身に付けていけると思います。

情報による感染症対策

新型コロナウイルス感染症をはじめ、インフルエンザ、結核、性感染症などありとあらゆる感染症への対策として、都内で発生した感染症の情報を収集し、都内での感染症発生動向を、都民の方、医療機関、保健所に発信しています。感染症の種類によっては、医師の決定が東京都全体に影響する場合もあり、都民の皆様が安心安全に暮らせるよう、感染症の法制度や予防方法をリーフレット等で周知し、拡大防止につなげています。医療機関と保健所に対しては、各種感染症のマニュアル等を作成し、感染症対策に取り組んでいます。

みなさんの考えで世の中が変わります

入職後に保健所で働くにしろ都庁で働くにしろ、自分の担当する分野に関しては、医師の決定が各自自治体や東京都での方針となり、ひいては日本全体の目安になっていきます。

新型コロナウイルス感染症の流行など先の見えない世の中ですが、入職すればみなさんの考えが反映されていきます。ぜひ一緒に働いて、世の中を変えてみませんか？

私は初期臨床研修終了直後の医師3年目から入職したため、最初は仕事をこなしていけるか不安でしたが、新規に入職した公衆衛生医師の職場には、上司として公衆衛生医師が必ず配置されているため、相談をしながらスムーズに定着することができました。また、東京都の公衆衛生医師は感染症対策だけでなく、人間に関わる全ての分野に業務があり、みなさんの今までの経験や専門が必要とされている場所が必ずあります。

希望者へのメッセージ



profile

中島 文晴

- 2017.04 文京区文京保健所予防対策課予防対策主査
- 2018.04 福祉保健局保健政策部保健政策課課長代理(健康危機管理担当) 健康推進課兼務
- 2019.04 福祉保健局保健政策部健康推進課課長代理(成人保健医療担当)
- 2020.04 新宿区健康部(保健所)保健予防課医療指導主査
- 2022.04 福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課課長代理(感染症対策調整担当)

入職前の経歴：初期臨床研修が終わった医師3年目から東京都の公衆衛生医師になりました。

趣味：東京観光

感染症対策部

「東京iCDC」専門家の助言のもと、感染症危機から都民の命と健康を守る政策立案や医療体制整備、情報分析・発信を行います。

西塚 至

profile

- 2002.04 健康局医療政策部医療安全課課長担当係長
- 2005.04 港区みなと保健所保健予防課予防係主査
- 2006.04 福祉保健局健康安全部感染症対策課課長担当係長
- 2007.04 国立保健医療科学院派遣
- 2008.04 渋谷区保健所恵比寿保健相談所長 福祉保健部副参事(地域保健医療担当)兼務
- 2012.04 港区みなと保健所健康推進課長
- 2015.04 福祉保健局健康安全部感染症対策課長
- 2016.04 福祉保健局医療政策部医療安全課長
- 2019.04 墨田区福祉保健部保健衛生担当(保健所)保健予防課長事務取扱
- 2020.04 墨田区福祉保健部保健衛生担当部長 墨田区保健所長
- 2022.10 福祉保健局新型コロナウイルス感染症対策担当部長

入職前の経歴：大学院でウイルスや細菌を扱うゲノム研究をしていました。統計学や感染症学の知識は、保健所長として新型コロナウイルス感染拡大時の住民とのリスクコミュニケーションに役立ちました。

趣味：水族館巡り(ふわふわと水中を漂うクラゲに神秘的な魅力を感じます)



希望者へのメッセージ

東京都の公衆衛生医師のやりがい

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、私たちの生活は一変しました。これまでの当たり前や、常識が通じない時代。我々東京都は、新型コロナウイルス感染症によって浮き彫りになった、様々な課題に立ち向かっています。

公衆衛生医師は、医学的知識を持った行政職員として、住民の命と健康を守る政策遂行に関わります。先が見えない時代だからこそ、新しい時代を切り拓くやりがいがあります。

東京の「健康安全のインフラ」をつくる。だれかを笑顔にさせる仕事。公衆衛生医師、おススメです。

新型コロナウイルス感染症パンデミックにおける役割

新型コロナウイルス感染症パンデミックのなか、日本は高齢化率が高いにもかかわらず死亡者数を少なく抑え、欧米各国に大きく水をあけています。国民の高い衛生意識、医療や介護現場を守り抜いた関係者の使命感の賜物ですが、ワクチンや治療薬といった「攻め」の対策を実施したこと、保健所による重層的な患者支援体制を構築したこと、東京都新型コロナウイルス感染症情報システム(MIST)を活用し、入院選定をデジタル化したことなどにより、都民の命と健康を守っています。

東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボード会議の様子



「東京iCDC」～感染症に関する政策立案と危機管理オペレーションを担う司令塔～

「東京 i CDC」は、感染症に関する政策企画・立案、危機管理、調査・分析、情報収集・発信など、効果的な感染症対策を一体的に担う司令塔として、2020年10月1日に設置されました。

感染症対策部は、「東京 i CDC」を所掌し、組織は「計画課」、「防疫・情報管理課」及び「事業推進課」の3課体制として同年7月に発足しました。感染症対策部は、平時から保健所、医療機関、研究機関と連携し情報の分析評価、危機発生時に備える体制整備を行います。そして有事の際には、「東京 i CDC」専門家ボードの助言を受けながら、検査・医療提供体制の確保、住民へのワクチン接種などの危機管理オペレーションを担います。

感染症対策部における公衆衛生医師の役割

社会全体のリスクである感染症の対策においては、住民や関係者から理解を得ながら、社会活動と両立することが求められます。公衆衛生医師は、東京都の政策立案や住民とのリスクコミュニケーションに関わります。

強靱な保健医療システム「東京モデル」の構築

新型コロナウイルス感染症との闘いで、東京都は「東京モデル」といわれる強靱な保健医療システムを構築しました。世界的に見て、感染者数、致死率を低く抑えている東京の保健医療の実力を世界へ発信し、「世界一安全・安心、便利で快適な都市」東京のブランド力にも貢献しています。

公衆衛生活動は 地域住民(集団)を対象とする、 統計と疫学によるサイエンスです。

石原 美千代

- 1994.04 板橋区赤塚保健所予防課医科主査
- 1996.04 武蔵野保健所保健サービス課課務担当係長
- 1997.04 衛生局健康推進部母子保健課課務担当係長
- 1999.04 教育庁体育部保健給食課学校保健担当係長
- 2000.04 国立公衆衛生院派遣
- 2001.04 練馬区関保健相談所長
- 2005.04 文京区保健衛生部(保健所)保健予防課長
- 2008.04 文京区保健衛生部(保健所)健康推進課長
- 2009.04 渋谷区福祉保健部(保健所)地域保健課長
- 2012.04 渋谷区健康推進部(保健所)専門参事 健康推進部(保健所)地域保健課長事務取扱
- 2013.04 大田区保健所参事 保健予防担当課長事務取扱(蒲田地域健康課長事務取扱)
- 2014.04 大田区保健所長
- 2016.04 北区保健所長 健康福祉部参事(地域保健担当)兼務
- 2018.04 目黒区健康推進担当部長 目黒区保健所長兼務

入職前の経歴：臨床医として放射線科で勤務。1型糖尿病のコントロール不良で体調を崩して、自分のライフワークバランスを考えるようになりました。

好きなこと：映画鑑賞 座右の銘：一閃を照らす

profile



特別区保健所の仕事と公衆衛生

特別区の保健所では、八王子市(中核市)、町田市(その他保健所政令市)と同様に、保健所と保健センターの仕事、すなわち広域的・専門的業務とともに、基礎自治体として住民に身近な地域保健サービスも行っています。

公衆衛生は、産業革命による都市部への人口集中によって生じた感染症を中心とする疾病対策として、大きく進展しました。当時、英国は結核の著しい流行を世界でいち早く経験し、19世紀初頭には死亡の4人に1人が結核死だったと言われていました。その後、1882年に結核菌が発見され、1895年にX線が発見され撮影法が発明されましたが、その頃には結核死亡率は半減し、さらに1950年頃にストレプトマイシンが使用されるようになった頃には10分の1になっていました。つまり、原因不明であっても、治療薬がなくても、環境対策と生活習慣改善により、不治の病であった結核も克服できることが示されたのです。一方、1930年代の米国では胃がんの死亡率が非常に高かったのですが、冷蔵庫の普及や衛生環境が改善されたことにより、死亡率は激減しました。時代は変わりましたが、現在問題となっている、新型コロナウイルス感染症、また、がん等の健康問題も公衆衛生の理念(環境対策と生活習慣対策)に基づいた活動を行えば、必ず克服できるはずですよ。

目黒区保健所では、この理念に基づいて、広域的・専門的業務に加えて住民への保健事業をあわせて実施しています。東京都と密接に連携しながら、地域住民との直接のふれあいを大切にして、地域の実情に合ったきめ細かい取組を行っています。

希望者への
メッセージ

公衆衛生活動で、美しく、
安全な地域へ

保健所業務は、住民に対する疾病予防(一次予防)、医療機関と連携した疾病対策(二次、三次予防)と医薬品、医療機器、食品衛生、動物対応等の全ての人の安全な生活のための対策を実施しています。そのため保健所では多職種(保健師、栄養士、歯科衛生士、衛生監視員、事務職など)が働いており、地域の医療機関や介護・福祉等の関係機関と連携しながら、業務を遂行しています。公衆衛生活動を推進することにより、美しく、安全な地域に変えていくことができるはずですよ。

これまでの経験を活かせる仕事です

東京都には都内31保健所をはじめとする公衆衛生医師にとって魅力のある、様々な経験ができる職場があります。あなたも働いてみませんか。



目黒区保健所
所長室にて

保健所における結核対策

新型コロナウイルス感染症対策で保健所の仕事知られるようになりましたが、実は保健所の大きな役割として、結核対策があります。結核患者の治療は臨床医が行いますが、患者の療養支援、感染源探索、接触者健診の実施、ハイリスク層への啓発など、保健所医師には周囲の環境を改善していく役割が求められています。日本の結核罹患率は減少傾向にありますが、潜伏期間の長い病気でもあり、世界的な人の流れがある現在、罹患率減少は国連のSDGsの一つにも挙げられています。患者だけでなく周囲の方の健康も守っていくやりがいのある仕事の一つです。

希望者への
メッセージ

東京都の保健所では所長、課長級、課長代理級と様々な職層の医師が一つの保健所に勤務しており、同じ所内で医師職に相談できる体制は重要で、日々の業務を通じて学びながら成長していくことができます。また、他県と異なり、都庁や都内の保健所の医師は一括採用となっており、医師同士の横の連携もあり、地域の特性をふまえた施策を学び、自分の経験を活かして仕事を進めることができます。

おすすめのウェブサイト

期待の若手シリーズ「私にも言わせて」(全国保健所長会ホームページ)

どんなキャリアを経て公衆衛生医師となられたか、いろいろな経験がみつられたエッセイです。初期臨床研修修了後すぐ、臨床を数年経験してから、専門医を取得してから、など自分のキャリアに近い方を探してみてください。

http://www.phcd.jp/02/j_koushusei/index.html#watashi



高橋 千香

- 2010.04 多摩小平保健所保健対策課 感染症対策担当係長
- 2012.04 北区健康福祉部(保健所)保健予防課結核感染症係長
- 2013.04 北区健康福祉部(保健所)副参事(精神保健・難病担当)
- 2015.04 北区健康福祉部(保健所)保健予防課長
- 2017.04 大田区健康政策部(保健所)感染症対策課長 健康政策部副参事(特命担当)兼務
- 2022.04 世田谷保健所感染症対策課長

入職前の経歴：臨床医、大学院(公衆衛生学)を経て東京都へ入職

趣味：読書、家族と犬と遊ぶこと

profile

感染症の脅威から住民を守る

私が所属している保健予防課は感染症対策、精神保健、予防接種を主に担当しています。その中で私は感染症対策を主に担当しています。現在も死因となりうる結核、食品衛生上重要な腸管出血性大腸菌、院内感染対策で重要な薬剤耐性菌等、感染症に関するものは全て対応しています。昨今では新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、感染症対策の重要性が再認識されました。罹患した患者への治療も重要ですが、そもそも患者を増やさないために、患者の隔離や接触した周囲への検査等の対応も重要です。そういった業務を保健所だけではなく、地域の医師会や医療機関とも共同で行っています。

地域に還元されるという公衆衛生医師の醍醐味

公衆衛生医師は、患者個人に対し診療する場面がとて少ないため、スキルや経験が増えても、臨床医のように直接的に効果を実感する場面は少ないと感じます。ですが、地域診断を行い、その上で地域に必要なとされる医療政策を長期的な目線で行っていくことで地域全体の健康寿命を延ばし、住民が安心して暮らせる場を作ることができます。公衆衛生医師が携わる部分は、生活に必要なインフラ整備や食品等の衛生管理、がん検診等の健康対策、感染症対策などとても広いです。そういった医療機関ではできない事業に関して制度設計を行い、それが形となって地域に還元されていくのは、公衆衛生医師の醍醐味の一つと考えます。

東京都にはいろいろな経歴を持った公衆衛生医師が働いています。今までの臨床で培った経験は公衆衛生分野でも活かすことができますので、ぜひ一度説明会等に来てみてください。

希望者への
メッセージ



堀 元海

- 2020.04 新宿区健康部(保健所)保健予防課医療指導主査
- 2022.04 墨田区福祉保健部保健衛生担当(保健所) 保健予防課主査

入職前の経歴：初期臨床研修医として千葉県某の病院に勤務

趣味：筋トレ、ランニング

profile



東京都の保健所は、市町村や
様々な関係機関・団体と連携・協働して、
地域のみなさんの健康を守っています。

渡部 裕之

- 2000.06 世田谷区烏山保健福祉センター健康づくり課保健医療担当係長
- 2002.04 多摩東村山保健所保健サービス課課長担当係長
- 2002.06 多摩東村山保健所保健サービス課長
- 2004.04 多摩府中保健所保健対策課担当課長
- 2005.04 江戸川区健康部(保健所)保健予防課長
- 2009.04 台東区健康部(保健所)健康医療課長
- 2010.04 台東区健康部(保健所)保健サービス課長
- 2012.04 台東区健康部(保健所)保健予防課長
- 2013.04 新宿区健康部(保健所)参事 保健予防課長事務取扱
- 2015.04 多摩府中保健所長
- 2017.04 西多摩保健所長
- 2018.04 千代田区保健福祉部地域保健担当部長 千代田保健所長兼務
- 2020.04 多摩立川保健所長
- 2022.04 西多摩保健所長

趣味：登山

profile



東京都の保健所

東京都が所管する保健所は、多摩地域の5か所と島しょ保健所(伊豆・小笠原諸島)を合わせて6か所あり、担当する複数の市町村や地域の関係機関・団体等と連携・協働しながら、地域のみなさんの生命と健康を守っています。

いわゆる県型の保健所として、感染症、食中毒対策などの健康危機管理、広域の医療連携などは主に都の保健所が、母子保健や予防接種、がん検診などの住民に身近なサービスは市町村が担い、専門性や事業の効果・効率も踏まえた役割分担をしています。

都の保健所は医師が複数名配置され、公衆衛生医師としての指導・育成がしっかりと行われており、保健所内の多職種(保健師・栄養士・歯科衛生士・衛生監視員・事務職など)と共に働く中で医師としても成長できるところです。

新型コロナウイルス感染症と保健所

新型コロナウイルス感染症では、保健所がこれまでに経験したことのない健康危機事態となりました。感染症法に基づく届出から積極的疫学調査やクラスター対応、患者の療養支援、健康観察や相談等の様々な業務に、地域の核として医療機関はもちろん市町村とも連携しながら対応しています。

感染拡大時に業務がひっ迫することもありましたが、所外からの応援等も得ながら、担当職員はもちろん職員全員が高い使命感のもとに一丸となって対峙し、困難を乗り越えてきました。

今回、膨大に増加する業務を遂行するため、これまで立ち遅れていた保健所のデジタル化が進み、飛躍的に事務の効率化が進みました。先入観にとらわれないみなさんの活躍をお待ちしています。

希望者へのメッセージ

何気なく目にとめた 公衆衛生医師募集の記事を きっかけに

臨床から基礎研究に転じたものの、研究生活に限界を感じていた頃、何気なく目についた公衆衛生医師募集の記事をきっかけに入職しました。都内の保健所で同じ頃に動き始めた仲間と交流する機会がありましたが、学生の頃から公衆衛生を目指していた方や、予防医学やヘルスプロモーションを熱く語る方々がいる中で、高い志を持っている訳でもない自分が続けられるかしらと怖気づいてから23年間が経ちました。これまでに、東は江戸川区から西は西多摩まで11か所の職場を経験しましたが、どのポストでも容易に「やりがい」が見つかり、とても充実していました。

多様な「やりがい」

公衆衛生の「やりがい」は実に多様です。感染症対策や疾病対策、健康づくり、予防活動等は医師として取り掛かりやすいでしょう。難病対策や精神保健、在宅医療等では、福祉や教育等の異なる分野の人たちと協働する面白さに気付きます。もちろん、災害時健康危機支援チーム(DHEAT)の活動では、あらゆる関係者と共にミッションを遂行する醍醐味があります。

さらに、地域の健康課題を抽出し、政策・事業を企画・立案することや、予算や人員等についての関係部署との侃々諤々の交渉にも面白さがあります。多職種で知恵を絞り、都民や議会に説明し多くの人の理解と共感を得ることに達成感があります。(これもヘルスプロモーションの一端?)

よく知らずに公衆衛生に飛び込んだ私ですが、続けるうちに多様な「やりがい」が見つかり、充実した仕事を続けることができます。

多摩立川保健所 保健対策課の業務

多摩立川保健所は6市(立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市)の人口約65万人を所管しています。保健対策課には、医師、保健師、診療放射線技師、事務職等が配置されており、所管する地域の感染症、精神保健、難病対策、母子保健分野等の保健衛生を推進するための事業を行っています。また、昨今の新型コロナウイルス感染症対策については、地域の医療機関及び医師会の先生方、6市の新型コロナウイルス感染症の担当部署の職員の方々と連携しながら、相談業務や入院調整、自宅療養者の健康観察等の支援を行っています。



難病の講演会をWEBにて開催中

希望者へのメッセージ

公衆衛生医師は、医師としての専門性を活かしながら、組織の一員として、保健師、事務職、診療放射線技師等の様々な職種と力を合わせるとともに、医師会の先生方や民間の事業所の方々の協力を得ながら、地域の健康課題に取り組んでいます。東京都の公衆衛生医師は都内の様々な行政機関を異動しますので、いろいろな職員と知り合うことができ仲間が増えます。私はこれまで、都民のために静かに燃える職員から多くを学び、勇気づけられながら業務に取り組んできました。また、都民の皆様からの励ましの言葉にモチベーションがあがることや、命を守る責任の重い仕事であることは臨床医の頃と変わりありません。東京都には多くの公衆衛生医師がいて、医師同士で情報共有できる点は心強いです。日々ダイナミックに変化していく東京都で働いてみませんか。

多摩府中保健所 保健対策課

多摩府中保健所 保健対策課の業務

多摩府中保健所は、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市を所管し、管内人口は100万人を超えています。保健対策課には医師、保健師、診療放射線技師、事務職等が配置され、地域の保健衛生を推進するための事業を行っています。

感染症対策は、感染症発生の予防や蔓延防止のための対応、正しい知識の普及や啓発や情報を地域に発信する等、医師としての役割も大きい分野です。また、精神保健、難病対策、母子保健分野では、患者さんやご家族が地域で安心して暮らせるためのサポートや体制づくりを市や地域の関係機関の方たちと協力して行っています。

希望者へのメッセージ

初期臨床研修後大学で勤務したのち、東京都の公衆衛生医師としてしました。祖母が開業医で、保健所の健診業務にも携わっていたこと、地域と結びつきながら医療に従事する姿を見てきたことが、興味を持つきっかけに大きく関係していると思います。実際に公衆衛生医師になり、まず地域の特徴を知ることは、様々な施策を進める上で重要だと実感しました。東京都内といっても地域によりそれぞれ違う特色がある中、様々な職種の方や関係機関と一緒に、地域住民の健康施策について検討し施策を進めていくことにやりがいを感じます。また、その時々社会的に取り上げられる健康課題に対応することも、公衆衛生ならではの、だと思えます。研修等の知識習得の機会も多く、また東京都全域に多くの公衆衛生医師がおり、相談体制があるのも心強いです。公衆衛生に興味のある方、東京都の公衆衛生医師として一緒にお仕事してみませんか。



都保健所

西山 裕之

- 2014.04 千代田区保健福祉部(保健所)健康推進課長
- 2016.04 江戸川区健康部(保健所)地域医療担当課長 医療安全担当課長兼務
- 2017.04 江戸川区健康部(保健所)保健予防課長
- 2019.04 足立区衛生部保健予防課長
- 2020.04 足立保健所副参事(感染症対策担当)兼務 足立保健所中央本町地域・保健総合支援課長
- 2021.04 多摩立川保健所保健対策課長

入職前の経歴：疾病の予防に興味があり、離島診療を経験した後、大学病院の総合診療部に所属その後、米国の公衆衛生大学院で学び、途上国での結核の公衆衛生活動に従事

趣味：ランニング、低山散歩
座右の銘：継続は力なり

profile

深井 園子

- 2006.07 世田谷区烏山総合支所健康づくり課保健医療担当係長
- 2008.04 文京区保健衛生部(保健所)予防対策課予防対策主査
- 2010.04 台東区健康部(保健所)保健サービス課保健サービス担当係長
- 2012.04 福祉保健局健康安全部環境保健衛生課課長担当係長
- 2014.04 国立保健医療科学院派遣
- 2015.04 新宿区東新宿保健センター所長
- 2016.04 杉並保健所保健サービス課長
- 2017.04 江戸川区健康部(保健所)地域医療担当課長 医療安全担当課長兼務
- 2019.04 江戸川区健康部(保健所)保健予防課長
- 2022.04 多摩府中保健所保健対策課長

入職前の経歴：臨床研修医を経て、大学で臨床病理科に所属
趣味：映画(おすめは「セリヌメとジュリーは舟で行く」)、バレエ



都保健所

都保健所

東京の島しょ地域にも保健所があり、住民の健康を守っています！

田口 健

- 1994.04 衛生局医療計画部医療対策課医療振興係
- 2002.04 健康局医療政策部救急災害医療課課長係長
- 2009.04 福祉保健局医療政策部副参事(医療調整担当)
- 2010.07 福祉保健局医療政策部医療調整担当課長
- 2011.04 総務局総務部被災地調整担当課長
- 2011.08 総務局復興支援対策部被災地調整担当課長
- 2012.04 福祉保健局医療政策部医療調整担当課長
- 2020.12 福祉保健局新型コロナウイルス感染症対策担当部長
- 2021.04 島しょ保健所長 その他のポストも兼務

趣味：アウトドア、家庭菜園、ジョギング

profile

希望者へのメッセージ

私は自治医科大学を卒業して（あの尾身茂先生は同じ東京都の大先輩です）島しょ医療に従事した後、都庁で長く医療政策に関する行政医をやってきました。東日本大震災、伊豆大島土砂災害、熊本地震などの大災害では現地に派遣され支援に当たりましたが、その経験は東京都の災害医療体制を考える上で大きく役立っています。東京都において公衆衛生医師を含めた行政医になる魅力は何と云ってもスケールが大きいことです。大都市東京全体に関わる、また全国や世界にも影響を与えるような大きな施策の企画・立案に関与したり業務の経験ができることは、重責ではありますが、本当に誇らしくやりがいを感じます。

新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策においては、感染者数も桁違いに多くなるため大変ですが、各種資源等に恵まれていることからいろいろな対策が打てます。また反対に島しょ地域という高齢化・過疎の進んだ地域に対してもスケールの大きな施策が展開できることも、東京の魅力だと思います。様々な活躍の場がある東京都で、みなさんと一緒に働けることを楽しみにしています。



東京都の島しょ地域とは

東京都には全域が国立公園内となる伊豆諸島・小笠原諸島に属し、一般住民が居住する11の有人島があり、2町7村に約2万4千人が暮らしています。東京から一番近い伊豆諸島の大島まで約100km、小笠原諸島の父島までは約1,000kmあり、日本の領海の約12%、排他的経済水域の約38%という広大な海域がこの地域によって確保されています。本土からの交通手段は、大型客船が全島に就航しているほか、島によって高速ジェット船や小型旅客機なども就航しており、意外と交通の便はいいです。世界自然遺産の小笠原諸島のみ6日に1往復の船便だけが頼りですが、日本の最南端と最東端は東京都の小笠原村にあるというのはご存じですか。島の人口は約160人~7,000人とかなり違いますが、どの島にも医療機関が整備され無医村はありません。

島しょ保健所の特徴

この広大な島しょ地域を所管するのが島しょ保健所です。所在地は新宿ですが、大島・三宅島・八丈島・小笠原父島の4島に出張所がありそれぞれに医師が配置されているほか、新島・神津島にも支所があります。医師の他に保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、栄養士、獣医師、食品監視員、環境監視員と様々な専門職により、小さいながらも保健所の全ての業務を行い、島の保健衛生を支えています。小さなコミュニティの中にいるので、住民や地元行政関係者などとの距離がとて近く、管轄内の事業所などを一つ一つ把握した上で、きめ細かいサービスができることが大都市部の保健所との大きな違いです。地域内には高度医療を行っている医療機関はないのですが、顔が見える関係の中、診療所などの臨床の先生方とも感染症や精神疾患の1例1例について詳しく意見交換をしながら連携して対応します。

豊かな自然の中で生活しながら、歯車になることなく地域全体を見渡して仕事ができることが最大の魅力です。



三宅島サタドー岬

多くの仲間と共に、知恵を出し合いながら市民の健康を目指しています。

profile

河合 江美

- 2002.04 健康局医療サービス部感染症対策課課長係長
- 2003.04 多摩立川保健所地域保健推進室 情報担当係長
- 2004.04 多摩立川保健所企画調整課健康危機管理担当係長
- 2005.04 中野区警宮保健福祉センター所長
- 2008.04 杉並保健所保健予防課長
- 2011.04 福祉保健局少子社会対策部事業推進担当課長
- 2013.04 渋谷区健康推進部(保健所)地域保健課長 (恵比寿保健相談所長兼務)
- 2014.04 板橋区健康生きがい部(保健所)予防対策課長
- 2016.04 町田市保健所次長 保健予防課長事務取扱
- 2019.04 町田市保健所長

入職前の経歴：循環器系の内科医として10年大学病院を中心に勤務

好きな言葉：人生に無駄なことはない

市役所にある保健所としての強みを生かす

町田市保健所は市役所の一部門として、いわゆる県型保健所の業務(感染症対策や精神保健、食品衛生や環境衛生業務など)と市の保健センター業務(母子保健やがん検診、健康づくりなど)の両方を担っています。医師・歯科医師は数年ごとに都、区、市間を異動しますが、それ以外の保健所の職員は、町田市の職員です。

保健所の職員には保健所からほとんど異動しない専門職もいますが、市役所内の異動先の一つとして、保健所に勤務している職員も多くいます。土地柄なのか、町田市の職員は、「町田生まれ町田育ち」という方が多く、「幼馴染」や「同級生」がいたり、職場内で結婚された方も多く、職員同士の関係が濃く、町田愛が強いと感じます。

人とのつながりを大切にする働きやすい環境

公衆衛生医師は、医師という目で保健所の業務を見ながら、自分が直接的に住民に接したり関わったりするのではなく、課題を解決するための体制や仕組みづくりを行うことが大切な業務になります。効率的で効果的な仕組みを作っていくには、保健所だけでなく、市役所内の子ども、高齢者、障がい者などの施策を行う部署や、広報、防災、文化スポーツの部門などとも、連携する必要が生じることもあります。

新しい体制や仕組みづくりは、手間と時間がかかりますが、職員同士の強いつながりを生かして、多くの職員や関連部署、地域の関係機関と協力し合い、人と人とのつながりを通じて調整していくことで、対策や施策を形にできるので、働きやすい環境だと感じています。

希望者へのメッセージ

東京都で働くことのメリット

東京都の公衆衛生医師は、数年ごとに異動があり、東京都、特別区、八王子市又は町田市の職員として勤務します。

配属先によって、そこで働いている人が全く違うだけでなく、仕事の進め方なども違うので、多くのことを経験し、学ぶことができます。

また、東京都の公衆衛生医師同士は、課長会や所長会など定期的に顔を合わせる機会も多いので、他の保健所はどうしているのか?とか、困った時にも、気軽に相談できる仲間をたくさん持つことができるのも、大きな魅力です。

記憶に残る体験

保健所長になった年に、全国保健所長会政令市部会の会長を引き継ぎました。全国60以上の政令市保健所長が集い、年に1度総会が開かれます。

所長1年目、初めての会議で会長として会議の進行をすることは、戸惑いもありましたが、職員の準備のおかげで、無事に総会は終了し、その後の懇親会では、初めてお会いした全国各地の保健所長と、思う存分はじけたことがとても記憶に残っています。その後は新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での開催が行われておりませんが、またみなさんとお会いしたいです。

都民の生命と健康を
最新の科学的データと
熟練の職員の手で
支えています。

吉村 和久

2019.06 健康安全研究センター所長

profile

入職前の経歴：
1988 熊本大学医学部を卒業し、
熊本大学医学部附属病院第二内科(血液内科)に入局
1996 同大学院を卒業後、1997年から2年半米国NIH/NCIに留学
1999 熊本大学エイズ研究センター病態制御分野で助手
2010 同センターで独立准教授
2012 国立感染症研究所エイズ研究センター第一室長

趣味：映画(高校生の時に名画座で観た「ローマの休日」のオードリーに
ハートを射抜かれて以来)、読書(北杜夫「どくとるマンボウ航海記」、
畑正憲「ムツゴロウの青春記」、星新一「ポッコちゃん」でイニシエーションを
受けて以来の活字中毒)、漫画(手塚治先生の「ブラック・ジャック」がパイブル、
「あしたのジョー」と「天才バカボン」はぜひアニメでなく原作漫画でお読みください。)



健康安全研究センターの業務

健康安全研究センターは、都民の生命と健康を守る科学的・技術的拠点として、食品、医薬品、飲料水や生活環境などの日々の安全・安心確保と感染症などの健康危機への備えの両面から、試験検査、調査研究、研修、公衆衛生情報の解析・提供及び監視指導を行っています。検査・研究部門は、試験検査のほか専門的研究に取り組み、広域監視部門では、監視指導業務に加え先行的な調査研究を行っています。中でも健康危機管理情報課は、健康被害情報の収集、解析、発信等のリスクコミュニケーション及び人材育成を行う拠点と位置づけられています。調査研究・試験検査に係る調整、研修等の企画、広報・普及啓発、感染症・食品・医薬品・環境保健衛生に係る健康危機管理情報の収集や解析・発信等を行っています。

健康安全研究センターにおける 公衆衛生医師の役割

本センターでの公衆衛生医師の主な業務は、疫学情報担当内に設置された感染症情報センターの専門的対応です。

例えば、東京2020大会や、今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックのような場合、感染症情報センターが保健所や病院、施設からの感染者情報の取りまとめのハブとなり、情報の流れを途絶えさせないように努めます。また、都内全域からの情報をいち早く集計・分析し、感染状況の把握を行い都内の保健所等と情報共有を行います。いかに早く正確な情報を都民に届けることができるかが、今回のようなパンデミック時にはカギとなります。今回の新型コロナウイルス感染症の流行により、当センター、特に公衆衛生医師の役割の重要性がよりクローズアップされたといえます。

希望者への メッセージ 新型コロナウイルス感染症 パンデミックの経験から言えること

エイズの基礎研究を長くやっていたので、公衆衛生に深く関わったのは、前職の国立感染症研究所で日本のHIVの薬剤耐性変異の状況を調査し始めてからです。顕微鏡を覗いてミクロの世界を観察するところから、全国の感染者の状況を俯瞰して調査することになり、最初は少々戸惑いました。ただ、今回の新型コロナウイルス感染症ではっきりしたように、正確な感染症発生動向の把握はその後の施策の決定に重要な役割を果たします。パンデミックのような状況では、試験管内で新しい薬を発見することと同じくらい、疫学情報をタイムリーに解析・発信することが重要であると、どちらにも関わって実感できました。また、公衆衛生医師の醍醐味の一つは、ある意味臨床医以上に多くの患者さんに関わることができることともいえます。特に東京都は海外から人や物と共に様々な感染症が日々流入してきます。興味がある方は、ぜひ世界最先端の感染症のトレンドを見られる特等席で一緒に動いてみませんか。



健康安全研究センター外観

教育庁

ユースヘルスケア事業・ 学校給食の運営

教育庁都立学校教育部学校健康推進課とは

学校健康推進課は、都立学校における学校保健や学校給食に関する事業を所管しています。そのため、医師、保健師、薬剤師、栄養師などの専門職や、事務職など多職種で構成された組織となっています。

都立学校における学校保健

学校健康推進課では、児童・生徒が健やかで安全な学校生活が送れるよう、児童・生徒の健康保持増進や健康教育、学校環境衛生の維持改善など、学校保健に関する総合的な計画や調整、指導を実施しています。生徒の心や性の健康課題に対する取組には、「都立学校における専門医派遣事業」があります。希望する学校に精神科や産婦人科の医師を派遣し、講演会や相談を行い、課題の改善や解決が図れるよう学校の支援を行っています。

都立学校における産婦人科医を活用した ユースヘルスケア事業

都教育庁では、都立校生が、思春期の様々な悩みを相談でき、必要なケアにつなげられるよう、産婦人科医と連携した相談支援体制を検討することになりました。

学校健康推進課では、上記を踏まえ、2022年10月より、高校や中等教育学校、特別支援学校等10校の都立学校で、産婦人科医を学校医として任用することにしました。これまで実施してきた専門医派遣事業では、継続的な学校への支援が難しいという課題がありました。産婦人科医が学校医となることで、必要時に相談が可能になり、また、学校の実状に応じた取組がより進めやすくなりました。



生徒・保護者向けリーフレット

profile

上田 直子

2015.04 多摩府中保健所保健対策課
課長代理(感染症対策担当)
2016.04 福祉保健局保健政策部疾病対策課
課長代理(課務担当)
2017.04 南多摩保健所保健対策課長
2019.04 町田市保健所保健予防課長
2022.04 教育庁都立学校教育部学校健康推進課長

希望者への
メッセージ

私は、臨床医としてしばらく勤務してから入職しました。臨床での専門と異なる領域と関わることが多いですが、様々な職種や関係機関の方々と協力し、広い視野で健康課題の解決に取り組めることにやりがいを感じています。

公衆衛生医師の仕事紹介 学校保健分野

都立学校における学校給食

学校給食は、安全で栄養バランスの優れた給食を提供するよう学校給食法等により、定められています。各学校は、国の「学校給食衛生管理基準」や「学校給食実施基準」に基づき、衛生管理を徹底し、献立を作成しています。学校健康推進課は、給食運営の総合的な計画や指導を実施しています。

都立特別支援学校の 学校給食摂取基準の改訂

特別支援学校の学校給食における栄養管理については、国や都で基準を定めていますが、障害の状況によって基礎代謝量等の個人差が大きいため、児童・生徒の実態に応じた栄養管理が必要になります。しかし、基礎データがまだ十分に整っていないという課題があります。そこで、専門家、学校、保護者の方のご協力をいただき、児童・生徒の身体状況や特性、家庭での食事内容の調査を実施し、現在そのデータの分析を行い、児童・生徒の身体活動レベルに応じた学校給食摂取基準を策定できるよう進めているところです。基準が策定できれば、より児童・生徒の実態にあった栄養管理を行うことが可能となります。



普通食
(献立:赤飯、さといも汁、つくね、くるみ和え、フルーツポンチ、牛乳)
形態食(初期食)

学校健康推進課では、成長過程にある
児童・生徒のより良い健康づくりに
取り組んでいけるよう、学校や関係機関と
連携し、事業を進めています。

公衆衛生医師の仕事紹介

新型コロナウイルス感染症対応

疾病対策課

新型コロナウイルス陽性透析患者の医療提供体制の構築

公衆衛生医師が最前線で対峙する業務

2020年1月に都内1例目が確認されて以降、約3年にわたり対応を続けている新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)は、保健所・都庁で健康危機管理に携わる公衆衛生医師が最前線となって対峙する業務であり、私は2020年1月から2021年3月までは保健所の課長として、2021年4月以降は都庁の公衆衛生医師として対策に取り組んできました。

都庁では、宿泊療養施設や酸素・医療提供ステーション、高齢者等医療支援型施設といった療養施設・臨時医療施設について、公衆衛生医師として健康管理や感染対策についての助言やマニュアル作成等を行い、施設担当部署と協同して開設や運営に当たっているほか、所属する疾病対策課が災害時の透析医療を担当していることから、コロナに感染した透析患者の医療確保にも取り組んでいます。



臨時医療施設内の透析室

第5波以降に深刻化する「病床」のひっ迫

都内では、特に第5波以降、病床は非常にひっ迫し、入院が必要な人もなかなか入院できない状況となりました。透析患者はコロナの重症化リスクが高いため、国は全数入院の対象としていましたが、感染した後も週3回の人工透析医療の提供が必要な透析患者は、一般のコロナ患者よりもさらに設備やマンパワーの面で病院にとって負荷があり、第5波でもギリギリの状態でした。そこで、疾病対策課が災害対策において培ってきた透析医療ネットワークを活用し、第6波以降の透析医療体制について、専門家と議論を重ねました。

まずは、臨時医療施設(酸素・医療提供ステーション)に、透析医療を提供できる機能を加えました。それまでは透析患者が病院に入院すると、隔離解除まで約10日間病床を占有してしまいましたが、入院後、病状が安定した透析患者を臨時医療施設に転院させる

ことによって、急性期を担うことができる病院の病床を空け、有効活用することを目指したのです。臨時医療施設での透析は、単に透析機器があれば提供できるものではなく、患者を診療し透析指示を出す腎臓内科医、実際の透析医療を提供する臨床工学技士・看護師が必要です。これも災害対策で連携している透析医療ネットワークの医師や技士が快く協力してくださり、実現に至りました。

外来医療機関と入院医療機関の役割分担

次に、第6波からはオミクロン株による感染が主体となり、ワクチン接種が進んだことと相まって、透析患者も重症化する割合が下がってきたことが分かったため、全ての透析患者の入院を目指すのではなく、無症状や軽症の患者は自宅療養を継続しながら、透析医療はかかりつけの外来透析医療機関が提供し、中等症以上になった透析患者のために病床を空けておくことを目指しました。外来透析医療機関が不安くコロナ感染者へ透析医療を提供できるよう、感染対策講習を含むオンライン説明会を繰り返したほか、療養期間中の透析医療機関への通院にあたり患者を搬送するサービスの提供を始めました。第7波はさらに大きな流行となりましたが、外来医療機関と入院医療機関の役割分担が進み、なんとか乗り越えることができました。

現在は、通常医療との両立を目指し、病診連携・病病連携によって透析医療が提供できるよう、災害時の透析医療ネットワークを活用した地域ごとの取組を働きかけています。



透析ベッドの様子

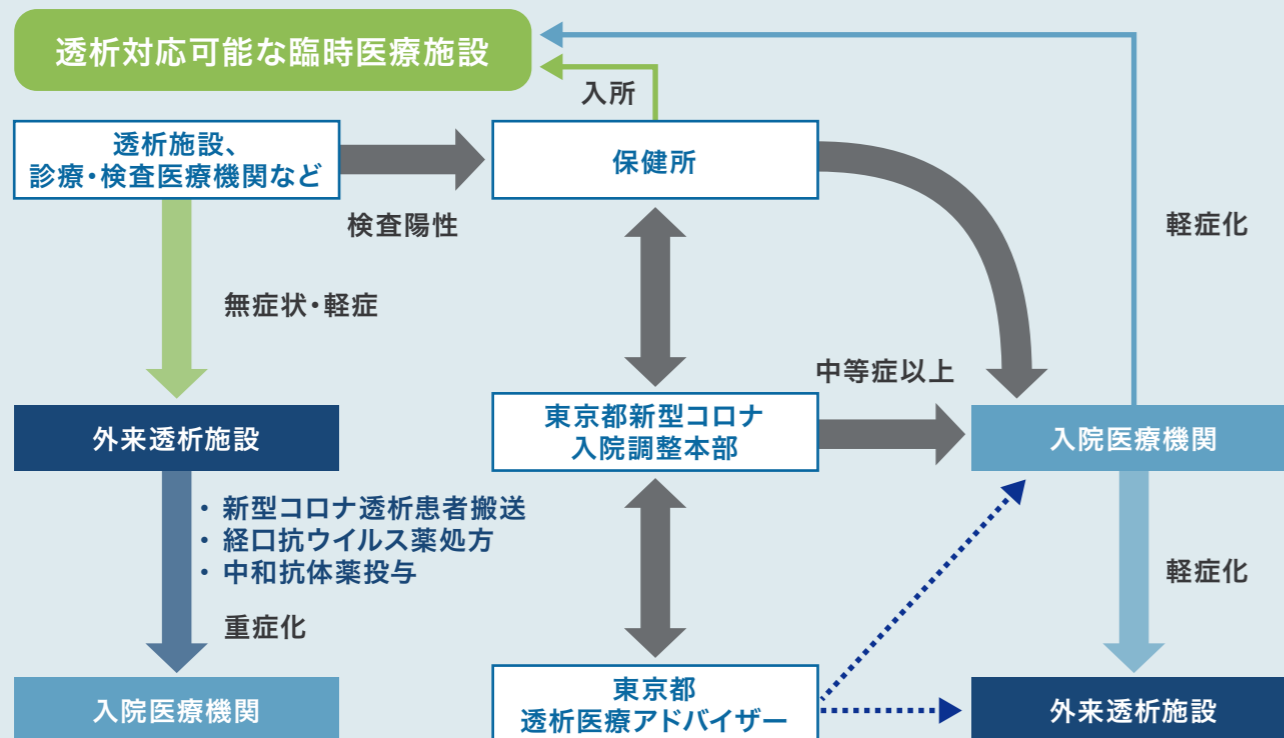
公衆衛生医師だからできる課題解決

実現に至る前は、臨時の医療施設で透析医療を提供するなんて難しいのではないかと考えたこともありましたが、よく行政は「縦割り」であると批判されますが、私たちは「公衆衛生医師」という専門性を強みに、都庁内の様々な部署を横断的につないだり、都庁外の専門家と連携することができます。始める前は困難だと思ったことでも実現に至る、その経験が大きな財産になっています。最終的に、コロナが通常の保健医療体制の中で問題なく対応できるようになるまでは、今後も流行の度に様々な課題に直面すると思いますが、公衆衛生医師の視点で取り組み続けていきたいと思っています。

仕事紹介

仕事紹介

東京都におけるコロナ陽性透析患者の医療提供体制(第6波以降)



希望者へのメッセージ

このパンフレットを手にとりいただいた先生は、公衆衛生に興味を持ってくださっていることと思います。でも、「公衆衛生を専門で学んだこともない自分ができるだろうか?」など、不安をお持ちではないでしょうか。

東京都は、都庁にも保健所にも公衆衛生医師が複数配置され、日頃から相談しやすい環境、TOKYOプログラムや課長代理級専門研修をはじめとした数々の研修体制、それぞれの分野におけるマニュアルやツールの整備により、初めての先生でも、無理なく安心して働き、ステップアップすることができます。

また、初期臨床研修での経験、過去に従事したそれぞれの診療科の経験など、あらゆることが公衆衛生の幅広い分野でふと活かされる日がくるでしょう。ぜひ、東京都の仲間に加わってみませんか? みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしております!

profile

渡部 ゆう

2007.01 江東区城東南部保健相談所医療担当係長
2007.04 江東区健康部(保健所)保健予防課医療担当係長
2010.04 福祉保健局健康安全感染症対策課 新型コロナウイルス対策担当係長
2013.04 国立保健医療科学院派遣
2014.04 足立区竹の塚保健総合センター長 江北保健総合センター長兼務

2015.04 新宿区健康部(保健所)保健予防課長
2017.04 千代田区保健福祉部(保健所)健康推進課長
2018.04 多摩立川保健所保健対策課長
2021.04 福祉保健局保健政策部疾病対策課長

入職前の経歴: 地方の基幹病院で内科系臨床研修医として勤めた後、麻酔科で勤務

趣味: 旅行、食べ歩き



公衆衛生医師の仕事紹介

災害時の公衆衛生活動

DHEAT

多職種で取り組む 災害時の公衆衛生活動

2018年7月に西日本で発生した豪雨災害支援のため、福祉保健局では制度化後初となるDHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)を発足し、7月17日から8月1日まで広島県西部東保健所に派遣しました。うち7月27日から8月1日までの6日間、公衆衛生医師をリーダーとして現地派遣された5名のDHEATの活動をご紹介します。

公衆衛生医師



渡部 ゆう
多摩立川保健所
保健対策課長
(現:福祉保健局保健
政策部疾病対策課長)

災害時に公衆衛生医師に求められる役割

大規模災害時には、長引く避難所生活など環境の変化や医療アクセス障害による二次的な健康被害を防ぐために、DMAT(災害医療派遣チーム)だけでなく、保健師チーム、心のケアチーム(※1)、リハビリチームなど様々なチームが住民支援のため被災地に集まります。

保健所には、膨大な情報を分析し、これら支援チームの活動や地域の保健医療全般を指揮調整する機能が求められ、被災地の公衆衛生医師はその中心となって活動する必要があります。一方、保健所自体の被災などにより指揮調整機能が機能不全に陥ることを防ぐため、

当時のメンバー
から見た
医師の活躍

保健師



栗原 玲子
多摩立川保健所保健対策課
課長代理(地域保健推進第二担当)

被災住民の健康維持等包括的な支援を進める上で多職種チームの司令塔となり、非常に重要な役割を果たしていると感じました。

栄養士



松本 祐子
南多摩保健所生活環境安全課
課長代理(保健栄養推進担当)

チームのリーダーとして、派遣先保健所・管内自治体業務のどの部分を優先して補完すべきかの確に状況判断し、支援方法を打ち出していました。

衛生監視員



奥村 龍一
多摩立川保健所生活環境安全課
統括課長代理(環境衛生推進第一担当)

診断治療ガイドラインがない中、現場に見合う最善の治療方針を示し、二次的な健康被害の予防に尽力されていました。

事務職



江口 朋幸
保健政策部健康推進課
課長代理(成人保健担当)

被災自治体が自ら保健活動を展開するための計画を策定する際には、医師として専門的助言をするともに、計画をまとめ上げる中心的な役割を果たしていました。

※1: 現在のDPAT(災害派遣精神医療チーム)を指します。 ※2: メンバーの所属は、2018年10月当時のものです。



被災地の様子

DHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)とは

災害時公衆衛生対策に関する多職種(公衆衛生医師、保健師、薬剤師、獣医師、管理栄養士、精神保健福祉士、臨床心理技術者、環境衛生監視員、食品衛生監視員等)より構成され、被災自治体からの応援要請等に基づいて派遣されます。被災自治体の指揮調整機能を支援することが期待されます。



被災地でのミーティングの様子

被災地保健所を支援するのがDHEATです。被災地以外の保健所職員で構成され、そのメンバーである公衆衛生医師はDHEATリーダーとしての役割が求められています。

多職種で活動することの重要性

発災後の健康被害を最小限にするためには、医療、保健予防、生活環境衛生を三本柱に対策を実施する必要があります。保健所にはそれぞれに対応する組織があり災害対策を実施しますが、DHEATも多職種で構成することによってそれぞれの専門性を発揮し、被災地保健所のあらゆる課題に寄り添い効果的な支援を行うことができます。

また、DHEAT リーダーの役割を担う医師の立場としても、チームが多職種で構成されていることにより、被災地を多角的に分析・評価することができ、非常に心強くなります。災害という非常時に力を発揮するために、専門職それぞれが日頃の業務や研修を通じてスキルアップを図っています。

医師の一日

課長代理(係長)級



村田 ゆかり
2021.04 健康安全研究センター
企画調整部健康危機管理
情報課課長代理
(疫学情報担当)

健康安全 研究センター



未就学児がいるため部分休業を利用し、9時に出勤します。出勤後は、まずはメールのチェックを行い緊急の要件がないかを確認。その後発生届の確認業務を行い、必要時、届出内容について保健所への問い合わせを行います。



週に1度、感染症対策部、保健所とWEB会議を行います。東京都や海外における感染症流行状況を発表します。毎週、WHOやCDCなどのホームページから国外の感染症情報を収集し、スライドを作成。英文を要約したりするため、今までの経験が役に立ちます。



昼休みは1時間あるので、外に食べに行くこともできますが、COVID-19流行中のため基本的には自席で黙食をしています。



病院や施設などの集団感染が発生し、保健所から疫学調査支援の要請があると、現地へ出張し疫学調査を行います。保健師さんとペアで調査を行うため心強いです。感染対策支援チームから派遣される専門家も同行するため感染対策についての知識も深まります。



出張から帰庁後、疫学調査内容を調査書としてまとめます。集団感染規模が大きいと作成に時間がかかりますが、早めの完成を心掛けています。保育園の迎え時間があるため、定時の17時15分に退庁し、子どもを迎えに行きます。

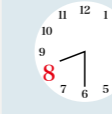
東京都健康安全研究センターで疫学情報担当をしています。発生届などから得られた情報や病原体情報を収集・分析し、感染症週報の発行、ホームページでの感染症流行情報の発信などを行っています。また、東京都実地疫学調査チームの一員として、病院や施設などでの集団感染発生時に保健所が行う疫学調査の支援も行っています。

病院に勤務していた時は、子どもがいなかったのですが、出産後に育児と仕事の両立ができるイメージがわからず、思い切って公衆衛生医師に転職しました。臨床医の時と比べて、ライフワーク・バランスが改善し、家族と過ごせる時間が増えました。また、東京2020大会で、マスコットイベント時の感染症対策について経験できたことが非常に勉強になりました。



曾我 一將
2021.04 大田区健康政策部
(保健所)感染症対策課
感染症対策担当係長

特別区保健所



8時30分から朝礼。新型コロナウイルス感染症対応の委託や派遣の職員の方も多く、情報共有のための大切な場です。午前中は、前日の残務やその日の予定を確認したり、感染症の届出や調査のための出張など日中の突発的な業務に対応できるように、書類作成など事務処理をこなしています。



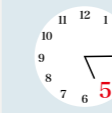
月2回結核患者の診断と治療について、臨床の先生方による診査があり、その準備をします。また、月1回HIV含めた性感染症検査があり、その結果説明を行っています。



大田区役所には職員食堂がなく、ほとんどの人がお弁当を持参するか、注文するなどして自席で食べています。余裕のある時は、蒲田グルメを楽しむ職員もいます。急ぎの調査があると、決まった時間に休みが取れないこともあります。



感染症の発生届があると、内容の確認と疫学調査のため、医療機関への聞き取りをします。類型や状況により患者さんの調査、また接触者となる同居者などの調査を保健師さんと協力して進めます。集団感染が疑われる場合には、職場や施設などへ訪問調査のため出張することもあります。



終業時間です。急ぎの調査など、その日中に終了させなければならない対応がある場合は遅くなることもありますが、普段はほぼ定時で退庁しています。

新型コロナウイルス感染症流行時は、その対応が大半ですが、本来の業務は、結核、性感染症対策や予防接種など多岐にわたります。大田区内には、羽田空港や東邦大学大森病院、第一種感染症指定医療機関である荏原病院などがあり、珍しい感染症を経験することもあります。医師の上司や保健師さんなど保健所内・外の方々と相談しながら業務ができ、勉強になります。

大田区保健所の
公衆衛生医師3人で
左から、関なおみ(課長)、
伊津野 孝(所長)、
曾我一將



ライフ・ワーク・バランス座談会

東京都では、育児や介護をはじめ生活と仕事の両立ができる職場づくりに向け、全管理職が「イクボス宣言」を毎年行うなど、ライフ・ワーク・バランスの両立を推進するための様々な取組を行っています。

仕事の生産性を上げて、家族と過ごす時間や自らを高める時間も大切にする。こうした時間が、明日への活力を生み出し、東京の持続的な成長を可能にします。

現在、公衆衛生医師として、生活と仕事の両立を実践している医師のみなさんにお話を伺いました。

妊娠・出産・育児に関する制度で利用した制度はありますか。

村田: 部分休業を朝30分利用し、9時から17時15分まで勤務しています。まだ子どもが3歳なので、発熱などで保育園を欠席してしまい仕事を休まなければいけないことがありますが、有給休暇とは別に、子どもの看護休暇が年に5日まで取得できるため、ありがたいです。

杉山: 入職時は、第2子を2駅隣の保育園に預けており、登園・降園・通勤にとても時間がかかったので、育児短時間勤務の制度を利用し、一日の勤務時間を4時間55分に短縮していました。その後、子ども2人が同じ園に通えるようになり、夫と朝の送迎担当を分担し、現在は週2回朝30分、部分休業を利用しています。

渡邊: 入職時、子どもは小学校高学年であったため、私自身は制度を利用していませんが、職場には産休や育休を取得している職員や、育児時間を取得し勤務している職員がいます。また、お子様の体調不良時に子どもの看護休暇を利用する職員もいます。

橋本: 勤務開始時間が選べるので、私は10時出勤にしています。朝は娘とゆっくりできますし、通勤も快適です。娘が突然の体調不良のときは保育園から連絡があります。

その際は妻と相談の上で、私が時間単位で子どもの看護休暇を取得し迎えに行くことができます。



お子様が生まれたことで、時間の使い方の意識が変わったことはありますか。

村田: 夫と交代で保育園の送迎を行っていて、子どもの迎えの担当の日は、就業時間には仕事が終わるように計画的に仕事を行っています。

杉山: 子どものおかげで、勤務時間とプライベートの時間のメリハリがつくようになりました。勤務時間中は勤務に集中できますし、退勤後は、家のことに集中しています。家の中のことについても、自分1人で行うことは効率化・短時間化し、子どもと一緒に時間は、できるだけゆとりが持てるように意識しています。

渡邊: できるだけ家庭での生活リズムを一定に保てるように、帰宅時間を意識して業務の予定を立てています。急な予定が入り帰宅が遅くなることもあったため、子どもが小学生の頃は民間学童等の放課後の預け先を複数確保し、外部のサービスを積極的に活用しました。

橋本: 比較的妻がやってくれますが、私も使える制度を使って家事、育児をしています。何より、妻のキャリアも大切にしたいと思っています。

子育てと仕事の両立のため、工夫されていることはありますか。

村田: 子どもが急に熱を出してしまうこともあるため、その際は自宅保育をしながら仕事ができるよう、テレワークの申請をしています。

杉山: 今年度は初めて取り組む仕事が多かったので、特にスケジュール管理・進捗管理を意識しています。私の現在の職場では、スケジュールを供覧できるので、できるだけ職場のスケジュール帳に入力しています。

橋本: 確かにスケジュール管理は大事ですね。私は1か月、1週間のスケジュールを把握し、優先順位を決めてから1日の仕事を進めています。勤務時間中は完全に集中して仕事を進め、定時になったらさっと帰っています。

渡邊: 私は帰宅したい時間から逆算し、業務の優先度をつけて一日の予定を組み立てます。時間がないからこそ、効率上がるように業務工程を工夫することで、生産性の向上につなげています。また、仕事を継続するにあたり、家族からの仕事への理解を得るのは大切なことと考えています。ありがたいことに息子が中学生となった今では、料理などの家事をサポートしてくれるようになりました。

一同: それは素晴らしい!

職場の上司や周囲の方からの理解やサポートがあると感じることはありますか。

杉山: 職場の上司や同僚のみなさんは、小さい子どもがいないが働くことを理解し、応援してくれます。平日の勤務時間外に及ぶ業務や土日の業務、家族の体調不良による急なお休みや子どもの行事による有給休暇についても、みなさんが配慮してくださるので、本当にありがたいです。

渡邊: 私も新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い緊急事態宣言が発出され、子どもの小学校が休校になった際に、リモートでも業務ができるように上司が業務内容について配慮してくれたので、安心して仕事を続けることができました。



profile
村田 ゆかり
2021.04 健康安全研究センター企画調整部
健康危機管理情報課課長代理
(疫学情報担当)
子どもは3歳で、保育園に通っています。

profile
杉山 美奈子
2019.10 墨田区福祉保健部保健衛生担当
(保健所)保健予防課予防医療担当主査
2022.04 墨田区福祉保健部保健衛生担当
(保健所)保健予防課長
3歳、6歳、同じ保育園に通っています。

profile
渡邊 愛可
2022.04 板橋区健康生きがい部(保健所)
感染症対策課長 他ポストも兼務
14歳(中2)男の子です。心身の成長が著しく、
親子の距離感が難しい年頃です。手がつかなくなり
なってきた分、行動範囲も広がりがありません。

profile
橋本 智央
2022.04 福祉保健局保健政策部疾病対策課
課長代理(難病対策医療担当)
保育園に通う4歳のやんちゃな女兒と、
もう1人は12歳(小6)のおとなしい男児で
家では、2人ともYouTube漬けです。

橋本: 誰かが休むと皆その人をカバーするようにさっと協力して動き出します。休みやすく、時間単位の有給休暇も取りやすい雰囲気です。

趣味を楽しんだり、自分の時間を作ったりと、リフレッシュするための工夫はされていますか。

杉山: 子どもが小さくてなかなか自分の時間が取れないので、子どもが楽しむ時間を、一緒に自分が楽しめる時間にできるように、子どもの興味があることに関する本を読んで知識を深めたり、逆に自分の興味があることに子どもを誘って一緒に楽しんだりしています。

渡邊: 私は体力向上のため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着いた頃から水泳を始めました。プールで一人黙々と泳ぐだけですが、自分のための時間を楽しめる上に心身共にリフレッシュできるので習慣化しています。

橋本: 仕事も家庭も大事ですが、1人になる時間もとても大事です。ちょっと疲れが溜まってきたと思ったら時間単位の有給休暇を取って早めに職場を出たりしています。

仕事を続けていて、あるいは公衆衛生医師を志して良かったと感じる時はありますか。

村田: 臨床医の頃と比べて、オン・オフがはっきりしているためライフ・ワーク・バランスがとりやすいです。

渡邊: 私も臨床医の頃よりも時間管理がしやすいため、家族との時間や自分の時間を楽しめるようになりました。子育てを含む実生活での様々な経験が公衆衛生医師としての仕事につながっているように感じています。

橋本: そうですね。私も研修医の頃はずっとスイッチが入った状態で

したが、今は基本的にはカレンダー通りなので、休日は完全にスイッチオフになります。休日に予定を入れやすいです。

杉山: 私は新型コロナウイルス感染症に関する業務が多いですが、クラスター等への対応を通して、発症予防と重症化予防の重要性を実感し、公衆衛生医師としてやりがいがあると感じています。また自分自身の成長につながる機会も多く、子育てと両立して仕事を続けていきたいと思っています。

公衆衛生医師を志す方へメッセージをお願いします。

渡邊: 最初から公衆衛生医師を志している人だけでなく、臨床や研究を経験してきた方も、その経験や知識を活かし、公衆衛生分野でキャリアアップできると思います。

橋本: 医師3年目の私が言うのも恐縮ですが、臨床医は標準的治療を、公衆衛生医師は標準的な職務を、単に「行う」ではなく「ずっと続けてゆく」ことが最も大切だと思っています。実際に働いてみると、公衆衛生医師は無理なく働ける息の長い仕事だと思います。

杉山: 現在勤務している保健所の公衆衛生医師の仕事は、地域の健康課題に対して、地域の実情に応じた課題解決を考える仕事です。やりがいがあるだけでなく、日々新しい発見と気づきがある面白い仕事と感じています。ぜひ、一緒に公衆衛生医師として働いてみませんか。

村田: 東京都は公衆衛生医師の採用人数も多く、研修なども充実しています。他地域の保健所では、医師が1人しかいない場合もあると聞きますが、東京都では保健所には2人以上の医師が配置されていますので、臨床医から転職する場合でも働きやすい環境にあると思います。みなさまのご入職をお待ちしています!!

課長代理(係長)級公衆衛生医師・ 歯科医師専門研修

毎月、課長代理(係長)級医師を対象として、感染症、精神保健、母子保健等における専門研修を実施しています。

職務に必要な知識を得られるだけでなく、入職同期や入職時期に近い医師との親交を図ることもできます。

研修のテーマは、医師からの意見等を踏まえて決定しており、関係機関(東京検疫所・東京都監察医務院等)の施設見学を行った年もあります。また、講義についてはWEB参加も受け付けているので、業務が忙しい時期でも参加しやすい環境が整っています。

2021年度の例

- 4月 **オリエンテーション**
研修第1回目は、新規採用職員向けのオリエンテーションや、他部署の先輩医師と共に、文書事務など行政実務の基本的な知識を学びました。
- 6月 **感染症**
健康安全研究センターが開催する「疫学の基礎(実践編)」を聴講し、感染症疫学の基礎を学び、現場での対応力の強化を図りました。
- 6月 **感染症**
結核予防会結核研究所から講師をお招きし、結核読影の演習をします。結核読影は課長代理(係長)級医師の業務において大きな比重を占めるため、研修により基礎を学びました。
- 7月 **施設見学(新型コロナウイルス感染症軽症者等宿泊療養施設)**
先輩医師が開設に携わった宿泊療養施設を実際に見学し、現場対応への理解や、感染症対策に関する知見を深めました。
- 8月 **社会医学系専門医制度・医療安全**
社会医学系専門医制度の概要や専門医に求められる資質・役割について、公衆衛生分野の現状を広く学びながら理解を深めました。また、医療安全に関する都の施策の動向等について学び、公衆衛生医師としての見聞を広めました。
- 9月 **健康安全研究センター**
都民の生命・健康を守る科学的・技術的拠点の健康安全研究センターの業務について学びました。保健所が業務上関わることの多い施設ですが、講義を通じ、具体的なセンターの役割を知ることができました。
- 10月 **学校保健・先輩医師との意見交換**
教育庁で働く医師から、普段は関わりが少くない学校保健について学ぶ貴重な機会となりました。また、先輩医師による講義や、公衆衛生医師の役割、業務内容や醍醐味などに関するディスカッションを通じて、自身のキャリアやライフ・ワーク・バランスを考える上での気づきを得ました。

公衆衛生医師の キャリアサポート

研修受講者の声



先輩の公衆衛生医師や専門家の方から、入職後すぐに経験することが多い結核等の感染症対応について実践的な内容を学ぶことができるだけでなく、公衆衛生医師が関わらう幅広い分野の最新の知見についての講義を聞くことができます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、同期など医師同士の交流の機会がほとんどなく、この研修を貴重な対面での交流の場と考え、できるだけ出席するようにしています。

大田区健康政策部(保健所)感染症対策課
感染症対策担当係長 曾我 一将

- 11月 **精神保健**
精神保健福祉法に基づく入院制度等の精神保健分野における課題や、精神疾患の背景の一つであるアルコール、薬物等の依存症について、事例とその対応を学びました。
- 12月 **鳥しょ・難病対策**
鳥しょ地域における保健活動について学び、地域の特性を踏まえた保健活動についての理解を深めました。また、東京都の難病対策、事業内容について理解し、難病認定が保健所の各事業や支援にどのようにつながっているか学ぶ場となりました。
- 1月 **産業保健**
「TOKYOプログラム」の一環として、東京都職員共済組合から講師を招き、安全衛生管理体制や健康診断前後の対応等の産業保健の基礎について、事例を通じて学びました。
- 2月 **災害医療**
健康危機管理機関としての保健所の災害時の役割について、概要と事例を学びました。いつ起こるか分からない大規模災害に対して、平時から備えることの重要性を改めて実感しました。
- 3月 **社会医学系専門医のキャリア形成**
国立保健医療科学院院長を講師に迎え、社会医学系専門医のキャリア形成と人材育成について理解を深めました。

入職後に公衆衛生行政に必要な知識を習得できる体制が充実しています。毎月開催される課長代理(係長)級研修のほか、国立感染症研究所(FETP-J)、国立保健医療科学院等への派遣研修制度があり、様々な経験を積むことができます。

また、社会医学系専門医制度「TOKYOプログラム」を整備しており、専門性の向上を図ることもできます。

TOKYOプログラムの特徴

- ①東京都、中核市・保健所政令市、特別区の保健所や都庁内、健康安全研究センター等、多彩な特色を持った職場で、多職種と連携して幅広く公衆衛生行政を経験できます。
- ②各配属先に、複数の公衆衛生医師(うち少なくとも1名は指導医又は専門医)が配置され、指導・相談体制が整っています。
- ③都が定期的の実施する「課長代理(係長)級医師専門研修」に、研修の企画段階から参加できます。
- ④都が実施する「実地疫学調査研修」において、感染症対応の基本や集団感染事例等を学べます。
- ⑤マヒドン大学(タイ・バンコク)でのアジアの感染症対策研修など参加可能な制度があり、また、東京都監察医務院や東京検疫所等の特色ある施設が研修協力施設となっています。

専攻医の声



公衆衛生医師の業務は範囲が広く、状況によっても変わります。そのため、情報収集や関係機関との連携が重要です。TOKYOプログラムを専攻するメリットは、専攻医が多く定期的に開催される研修で他自治体における状況を把握しやすいこと、また副分野として医療機関の会議に参加することで地域の医療従事者と顔の見える関係を築きやすいことだと考えます。

墨田区福祉保健部保健衛生担当(保健所) 保健予防課主査 堀 元海

専門医取得者の声



東京都には公衆衛生医師対象の多くの研修が用意されており、また配属される都庁や保健所の他にも健康安全研究センターや都立病院などの多くの学びの場があります。日々の職務の中で多様なミッションに多職種協働で取り組む経験こそが、みなさんを公衆衛生医師として大きく成長させてくれます。TOKYOプログラムの研修手帳の記録が増えるたびに、自らの成長を実感できることでしょう。職場には様々なバックグラウンドを持つ専門医・指導医が必ず配置されており、新たに公衆衛生医師を志すみなさんを待っています。東京都で共に学んでいこうではありませんか。

南多摩保健所保健対策課長 荒川 泰雄

指導医の声



東京都では、実践的な知識を学ぶための研修が充実しているほか、複数の医師が配置され気軽に相談できる体制、数年ごとの異動により幅広い経験を積むことができる環境があります。加えてTOKYOプログラムの専攻医になることで、副分野として、入職もない課長代理級の間にはあまり身近ではない「医療」「産業・環境」分野についても、研修や実習を通じて無理なく学ぶことができます。公衆衛生医師としての視野が広がるだけでなく、将来、保健所長として幅広い業務を担う保健所の責任者となる際に、必ず役に立つと思います。TOKYOプログラムで社会医学系専門医を目指しませんか？

福祉保健局保健政策部疾病対策課長 渡部 ゆう

学術休職の 制度紹介

研究所等の公共施設で従事する研究等が職務と密接な関係があり、その成果が職務に還元できる場合などに休職できる制度(3年以内)です。なお、長期にわたる休職のため、勤務成績が優秀であり、将来を通じて東京都で勤務する方が対象となります。

学術休職 経験者の声

MPH(Master of public health)を取得するため、日々授業、課題、研究に励んでいます。様々なバックグラウンドを持った同級生とのディスカッションやグループワークも多く、同じ課題でも違った視点からのアプローチを発見し興味深いです。学業に専念でき、制度を利用して良かったと感じています。

profile

土方 奈々

- 2017.04 多摩立川保健所 保健対策課課長代理(感染症対策担当)
- 2018.04 福祉保健局保健政策部 疾病対策課課長代理(難病対策医療担当)
- 2020.04 池袋保健所健康推進課 健康推進担当係長
- 2022.04 福祉保健局保健政策部 保健政策課課長代理



派遣研修

国立感染症研究所(FETP-J)

感染症対策を担う人材を育成することを目的として、国立感染症研究所の実地疫学専門家養成コース(FETP-J)への派遣を行う制度があります。

2年間という長期の養成コースですので、一定の勤務実績があり、将来にわたって東京都で勤務する方が対象となります。

国立保健医療科学院

公衆衛生、保健福祉医療分野におけるリーダーとなるために必要な高度な能力を養うことを目的として、1年間の専門課程への派遣を行う制度があります。

マヒドン大学

結核、HIV/AIDSなどアジア各都市に共通して課題となっている感染症や、鳥インフルエンザ、デング熱など、日本では症例の少ない感染症について知識や対応策を習得するため、タイの教育・研修機関であるマヒドン大学へ2週間程度の派遣を行う制度があります。

CAREER PATH

キャリアパス

大都市東京における公衆衛生医師は、保健・医療・福祉分野の各事業について、医師としての立場から、幅広い専門知識・技術を基に、医学的評価や判断を行います。

また、事業の企画・立案、進行管理を行う行政職としての役割も担います。

これらを通じて、将来においては、組織の管理職・長として、都における公衆衛生行政の指導的な役割を果たしていきます。

東京都の公衆衛生医師のトップとして、大局的な視点を持ち、保健衛生行政に関する重要な施策の推進・判断を行います。

技監、理事 (局長級)

部長3年以上 ▶

本庁部長、保健所長 (部長級)

本庁部長や保健所長として配属され、組織の責任者として中・長期的、実質的見地から、実効性のある施策を展開していきます。

課長8年以上 ▶

本庁課長、保健所課長、保健センター長 (課長級)

本庁や保健所の課長、保健センター長として配属され、事業の企画・立案、実施、進行管理等、管理職としてマネジメント業務を行います。議会対応やメディアとの交渉も行います。

課長代理(係長)級2年以上
医歴9年以上 ▶

本庁課長代理、保健所係長・主査 (課長代理級)

行政職員としての基礎を固めるとともに、専門職として、保健医療・福祉分野の幅広い専門知識・技術を基に医学的・公衆衛生学的判断を行います。保健師、衛生監視員、栄養士、事務職など多職種と連携して仕事を進めていきます。

臨床研修修了

公衆衛生医師になったきっかけ

臨床医からの 転身



これまで脳神経内科医として総合病院に勤務し、神経難病の診療に当たることがありました。難病の医療費助成の書類を作成することもありましたが、それがどのように審査・承認されているのかは実はよく知りませんでした。また、臨床医として患者さんと関わる中で、レスパイト入院、訪問診療、相談会など、様々な支援を東京都など自治体が行っていることを知りました。このような難病対策に関わる業務に関わりたいと思い、東京都へ入職しました。

曾我 一将 大田区健康政策部(保健所)感染症対策課感染症対策担当係長

初期臨床研修 修了直後の 入職



研修医時代は糖尿病・代謝内科医を志していました。主に専門とする疾患は生活習慣が大きく関与するものが多く、特に2型糖尿病は食事療法や運動療法の生活改善が基本になります。ですが、外来や入院患者さんを診ていると、生活改善に積極的ではない方が多く、また関わる時間も少ないため、根本的に生活習慣の改善は難しいと感じていました。そのような方が予防医療で無理なく、生活改善できれば、その時の気持ちが公衆衛生医師になったきっかけです。

堀 元海 墨田区福祉保健部保健衛生担当(保健所)保健予防課主査

profile

成田 友代

1992.10	町田保健所予防課主査	2010.04	福祉保健局健康安全部感染症対策課長
1993.04	町田保健所保健サービス課課長担当係長	2011.04	福祉保健局担当部長(医療政策部医療安全課長事務取扱)
1994.04	板橋保健所予防課医科主査	2013.04	世田谷保健所長
1998.04	国立公衆衛生院派遣	2015.04	福祉保健局担当部長
1999.04	練馬区桜台保健相談所長	2015.07	福祉保健局医療改革推進担当部長
2002.04	練馬区保健所予防課長	2018.04	福祉保健局保健政策部長
2003.04	中央区保健衛生部(保健所)健康推進課長	2020.09	新型コロナウイルス感染症保健政策担当部長兼務
2006.04	多摩立川保健所保健対策課長	2022.07	福祉保健局技監 教育庁技監
2008.04	福祉保健局少子社会対策子ども医療課長		感染症危機管理担当部長事務取扱



CAREER PATH

1994年 板橋区板橋保健所主査時代

入職後、都の保健所を経て、特別区の保健所に勤務し、主に結核等感染症対策を担当しました。保健師さんと一緒に、結核患者さんのご自宅や事業所を訪問し、日常生活等、お一人お一人の状況を把握した上で、服薬支援やご家族・接触者の方の健診等を実施しました。患者さんのご家族や職場の方等のご協力に加え、病院、薬局、福祉部門等関係機関が連携して支援することの大切さを知ることができました。主査の頃の現場での経験はかけがえのないもので、今も仕事を進める上でその時の教訓が活かれています。

1999年 練馬区桜台保健相談所長時代

管理職1年目、住民に身近な保健サービスを提供する保健相談所の所長として勤務しました。管理職になると、事業の進行管理や職員管理、議会対応等新たな役割が求められます。各事業の打合せなど様々な機会を捉え、保健師・栄養士等の医療系専門職や事務職員の方々と積極的に意見交換をしながら、必要な助言を行うよう心がけていました。また、保健相談所で行われている健診や生活習慣病予防教室等の事業は医師会や歯科医師会等地域の関係機関の方々のご協力により実施されており、管理職として関係機関との連絡調整の進め方を学ぶ大切な機会となりました。

2003年 中央区保健衛生部(保健所)健康推進課長時代

当時、アジアを中心に原因不明の急性肺炎としてSARS(重症急性呼吸器症候群)が流行していました。地域の医師会や病院の方々と万が一の発生に備え、医療提供体制について検討を行っていた矢先に、区内において都内初のSARS 疑い事例の発生がありました。直ちに疑い事例の方が所在する場所に赴き、個室隔離や情報収集を行った上で、都の感染症対策課と連携して、感染症指定医療機関への搬送調整を行いました。搬送先で検査結果が判明するまでの間、接触者の方々への健康状況の聴取や現場での待機依頼、マスク対応等保健所職員が一丸となって対応しました。最終的にはSARSは否定されましたが、職員の方々と共に、無事危機を乗り越えられたときの喜びは格別であり、課長時代の大切な思い出となっています。

2011年 福祉保健局担当部長 (医療政策部医療安全課長事務取扱)時代

医療安全課では、医療法に基づき、都内病院の開設計可や医療法人の設立認可等の業務を行うとともに、立入検査等を通して病院の医療安全管理や院内感染対策のための体制等確認し、必要な指導助言を行っています。当時、都内の病院では初めての薬剤耐性アシネトバクターによる院内感染の発生があり、その後も多剤耐性菌による院内感染

の事例が相次いで報告されました。課長職として、課内の医師や看護師等の医療職と事務職員による多職種チームと共に各病院を訪問し、病院スタッフと連携して感染拡大防止に取り組みました。こうした経験は、院内感染対策に対する知識と技術を深める機会となりました。

2013年 世田谷保健所長時代

保健所の業務全てを統括する立場となり、食品衛生や環境衛生、医事業事等、自らが職員として経験したことのない業務についても必要な指示や助言を行わなければなりません。世田谷区は都内で最も人口の多い自治体であり、デング熱の国内感染事例やエボラ出血熱疑い事例への対応等、貴重な経験をさせていただきました。健康危機発生時には、組織のトップとして、迅速な方針決定と必要な指示が求められますし、区長にも対応方針を説明しご理解いただくことが重要です。初めての保健所長職であり、緊張の連続でしたが、区政の重要な健康施策に携わることができ、大きなやりがいを感じていた頃でもあります。

2018年 福祉保健局保健政策部長時代

東京都全体の保健政策に係る企画・立案を所管する部署の部長として、健康づくり施策、がん予防、自殺対策、難病対策等に取り組みました。ちょうどオリンピック・パラリンピックを2年後に控えた年に着任し、都の重要施策である受動喫煙防止条例の立案・施行過程に関与することになったのですが、今まで経験したことのない仕事であり、無我夢中で対応したことを覚えています。都議会でも条例が成立したときのことは今でも忘れられません。公衆衛生医師として、都における受動喫煙対策の歴史的な一歩を踏み出す局面に携わることができたことはかけがえのない思い出となっており、街中で飲食店の店頭に掲示された「禁煙」のマークを見るたび、懐かしく思い起こしています。



キャリアを 振り返って

東京都には約100名の公衆衛生医師がいます。私は採用時、課長代理(係長)級の医師として保健所に配属されました。保健所長と課長の2人の上司がおり、OJT(On the Job Training)を通して公衆衛生の基礎から教えていただきました。このように、各職場には複数名の公衆衛生医師が配置されており、初めての職場で孤立するといった心配がないことも都のメリットです。また、毎月、課長代理(係長)級医師の研修があり、この場で同じ立場の医師と情報共有をしたり、職場での悩みを相談したりする機会となりました。同期の医師は今でも大切な相談相手となっています。勤務場所も都庁、保健所や保健センター、健康安全研究センター等多岐にわたり、貴重な経験ができることも大きな特徴です。私自身、今まで培った全ての経験が、今の仕事に活かれています。ぜひ、私達と一緒に東京都で働きませんか？

キャリアパス



profile

杉下 由行

1999.05	衛生局総務部地域保健課(都立広尾病院派遣)	2014.04	中央区福祉保健部(保健所)健康推進課長
2001.05	葛飾区葛飾保健所予防課課長担当係長	2016.04	福祉保健局健康安全部感染症対策課長
2003.04	健康局医療サービス部感染症対策課課長担当係長	2019.04	福祉保健局医療政策部医療安全課長
2005.04	福祉保健局健康安全室環境保健課課長担当係長	2020.04	福祉保健局新型コロナウイルス感染症対策担当部長
2007.04	国立感染症研究所派遣		医療連携推進担当部長兼務
2009.04	島しょ保健所小笠原出張所副所長	2020.09	福祉保健局感染症危機管理担当部長
2011.04	健康安全研究センター疫学情報室副参事研究員		医療連携推進担当部長兼務
2012.04	健康安全研究センター企画調整部疫学情報担当課長	2022.10	健康安全研究センター健康情報解析担当部長兼務
			墨田区保健所長(墨田区福祉保健部保健衛生担当部長)

CAREER PATH

1999年 都立広尾病院臨床研修時代

国家試験合格後、広尾病院での研修を開始。研修医同士、とても仲が良く、常に研修医医局と一緒に過ごしていました。腕を出し合い留置針の手技を覚えたり、処方箋の書き方を見よう見まねで覚えたりしたことは懐かしい思い出です。一方で、検査オーダーのミスや診察のやり直し、鑑別診断ができなかったことなどの失敗は今でもよく覚えています。広尾病院は島しょ医療も担うため、ヘリコプターによる救急搬送時の添乗や島での代診医としての勤務は大変得難い経験となりました。

2003年 感染症対策課課長担当係長時代

ちょうど重症急性呼吸器症候群(SARS)が海外で流行し、いつ都内に入ってきてもおかしくない非常に緊迫感のある中で対応に当たりました。課の保健師さんと一緒にSARS相談用のQ&Aを作成したのが最初の仕事でした。当時の課長が24時間体制で疑い患者の検査を行う仕組みのことを「東京SARSアラート」と名付けましたが、これが「東京感染症アラート」として今に引き継がれています。何事にも迅速性が求められ大変忙しい職場ではありましたが、自分で仕事を組み立て、優先順位を付けて進めていく力を養うことができたと思います。

2007年 国立感染症研究所派遣研修時代

実地疫学専門家養成コース(FETP)で2年間感染症の実地疫学を学びました。FETPは、各自治体に感染症対応ができる専門家を配置する目的で作られた組織。感染症対策は経験に頼ることも多く、体系的に学ぶ必要があると考えていました。ステップに則ったアウトブレイク対応、サーベイランス情報の評価を学び、WHO西太平洋事務局での短期勤務も経験。国立保健医療科学院とのジョイントコースで研究も行い、公衆衛生修士を取得。FETPで学んだ技術と人間関係は、今でも大変役立っています。

2009年 島しょ保健所小笠原出張所副所長時代

出張所は父島にあり、所員は7人、都内で一番小さな保健所です。広尾病院と一緒に働いていた先生が父島診療所の所長として同じ時期に赴任されていて、病院時代のつながりが役立ちました。医療と保健の連携の中で島民の健康が守られており、診療所からの報告で感染症や精神の事例を探知することも少なくありませんでした。年に数回、健康相談や小規模企業健診実施のために母島へ。小笠原は自然豊かで、白い砂浜と青い海、サンゴが広がり、イルカの群れやクジラがやってきます。都会の喧騒の中で我がが普段感じなくなった自然を肌で感じるができる場所でもありました。

2011年 健康安全研究センター疫学情報室副参事研究員時代

感染症法に基づく全数及び定点把握疾患について都内保健所からの報告を週報としてまとめる業務を担当。FETPで学んだサーベイランス

データの収集、集計、解析、対策に従事する人への還元という一連の流れを理解した上で、データを扱えるようになりました。また、東京都実地疫学調査チームを立ち上げ、さらに感染症に関わる人材育成を目的に保健所職員向けの研修を新たに開始。毎週、保健所、健康安全研究センター、本庁がWeb会議で感染症情報を共有する仕組みも整え、感染症発生動向やアウトブレイク情報を定期的に共有する場として今に続いています。

2014年 中央区福祉保健部(保健所)健康推進課長時代

都型市保健所発祥の地として歴史に刻まれる保健所です。ここでは、新型インフルエンザ行動計画を策定し、聖路加国際病院と一緒に患者対応訓練を実施。また、結核コホート検討会(治療成績等を評価)を立ち上げ結核対策を強化しました。監査、決算、予算、人事のほか、議会対応、組合対応など管理職としての業務も数多く経験を積みました。予算要求では、現状を分析し、課題の改善で、どう区民に役立つのか、費用対効果はどうか、そういう考え方が重要なことを区の幹部の方から教わりました。内部の検討のみならず区民や医師会等からの要望も踏まえ広い視野で総合的に判断していくことの重要性もここで学びました。

2020年 福祉保健局新型コロナウイルス感染症対策担当部長・感染症危機管理担当部長時代

第1波から第7波まで、毎回想定した数を上回る新型コロナ患者が発生し、急増する患者対応に追われました。当初はワクチンも治療薬もなく、緊急事態宣言により人々の行動制限が行われ、さらには保健所業務が滞り、医療逼迫が発生するなど、今までに経験のない事態が次々と発生。患者の夜間救急搬送では入院先を保健所が探していましたが、保健所の負担は限界に達し、それを解消するために夜間入院調整窓口を設置して、そこで一括して入院調整をできるようにしました。また、感染状況・医療提供体制を分析するためのモニタリング項目の策定や、新型コロナウイルス感染症対策の司令塔となる「東京iCDC」の立ち上げも担いました。とにかく目の前のことへの対応に精一杯でしたが、都民の命と健康を守るという想いで、休日返上で懸命に取り組んだ毎日でした。東京2020大会中は感染症の強化サーベイランスを実施。デイリーレポートを作成してリスク評価を行い、都内で発生した感染症を早期に探知し関係者間で共有する体制を構築することで有事に備えることができました。

キャリアを振り返って

職歴を振り返ると、この二十数年ほぼ2~3年おきに異動し、現在まで過ごしてきました。様々な職場を経験し、キャリアを積むことができるのは東京都の魅力の一つです。また、多くのポストがあり、各職場に複数名の公衆衛生医師が配置されているのも東京都ならではの特徴です。希望があれば島の保健所を経験することもできます。もし興味を持たれましたら、お気軽にお問い合わせください。



profile

石原 美千代

1994.04	板橋区赤塚保健所予防課医科主査	2009.04	渋谷区福祉保健部(保健所)地域保健課長
1996.04	武蔵野保健所保健サービス課課長担当係長	2012.04	渋谷区健康推進部(保健所)専門参事
1997.04	衛生局健康推進部母子保健課課長担当係長		健康推進部(保健所)地域保健課長事務取扱
1999.04	教育庁体育部保健給食課学校保健担当係長	2013.04	大田区保健所参事 保健予防担当課長事務取扱
2000.04	国立公衆衛生院派遣		(蒲田地域健康課長事務取扱)
2001.04	練馬区関保健相談所長	2014.04	大田区保健所長
2005.04	文京区保健衛生部(保健所)保健予防課長	2016.04	北区保健所長 健康福祉部参事(地域保健担当)兼務
2008.04	文京区保健衛生部(保健所)健康推進課長	2018.04	目黒区健康推進担当部長 目黒区保健所長兼務

CAREER PATH

1996年 武蔵野保健所保健サービス課課長担当係長時代

主に結核等の感染症業務、大阪堺市で発生したO-157の集団感染事例を受けて当時指定伝染病に指定された腸管出血性大腸菌感染症対応、新生児等のマスキリング検査への対応、翌年4月に地域保健法全面施行を控えて、母子保健事業の武蔵野市への移管や、三鷹保健所との統合に向けた準備などに当たりました。健康危機発生時に保健所が果たすべき役割について認識を新たにし、住民対応は「一期一会」と肝に銘じ、業務多忙や自分自身の体調・気分等に左右されることなく、住民対応に誠意を尽くすことの大切さを学びました。

1997年 衛生局健康推進部母子保健課課長担当係長時代

育成医療、小児慢性特定疾病の認定審査会の準備・運営等、区市町村への母子保健事業説明、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する普及啓発や調査実施、内分泌かく乱物質に関する普及啓発、助産師会等の関係団体への研修実施、海外からの視察等への対応など様々な業務に当たりました。専門医の先生方から様々な知見を直接伺える会議の場はとても勉強になりました。また、育成医療等の申請者の心情や認定審査会に臨む委員の姿勢から、公平公正に認定審査を行うことの重要性を学び、神経芽細胞腫のマスキリング検査が数年後(2003年)に休止されたことで、事業の目的・効果等を自分で考えることの必要性を学びました。

2001年 練馬区関保健相談所長時代

乳幼児健診、育児学級等の母子保健事業、生活習慣病予防のための講演会や健康教室等の成人保健事業、精神障害者デイケア事業、精神保健相談等の精神保健事業、保健相談所職員の人事管理、事業の進行管理、区議会対応等の業務に当たりました。また、児童虐待予防対策における保健所の役割に関する研究に参加し、区の母子保健担当として3年間研究に携わりました。住民に身近な乳幼児健診等の母子保健事業全般を担当しながら、児童虐待防止について研究を通じて理解を深めることができ、その時の学びを基礎として、現在も妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に取り組んでいます。

2005年 文京区保健衛生部(保健所)保健予防課長時代

乳幼児健診や基本健康診査(成人)、歯科健診等の保健事業の医師会・歯科医師会等への委託、結核等の感染症対策、予防接種事業、職員の人事管理等、事業の進行管理、組織体制の検討、議会対応などに携わりました。2006年に結核予防法が感染症法に統合され、2007年4月に施行。人権を尊重しつつ感染症法に基づいて感染症対策を行うことの重要性を再認識しました。また、今後の業務の在り方を予測しながら、仕事しやすい組織体制を構築することの必要性と、職員の理解を得るために議論を重ねることが不可欠であることを学びました。

2014年 大田区保健所長時代

経験したことのない食品衛生、環境衛生、医事薬事等の生活衛生課業務を含む保健所業務全般に取り組みました。区内に羽田空港があるため、空港検疫と連携してエボラ出血熱や中東呼吸器症候群(MERS)疑いの患者への対応も担当。特別区で最も広い面積の大田区は、感染症の事例対応業務を4課で分担していましたが、スケールメリットを活かして専門的な対応が可能となるよう感染症対策課を設置する組織改正を実施しました。感染症対策においても、保健所はチームとして連携し、迅速に対応することが重要であり、検疫所等関係機関との情報共有と業務改善のための検討が不可欠であることを身をもって経験しました。また、機動的な組織体制の構築も不可欠だと感じました。

2018年 目黒区保健所長時代

保健所業務全般(+住宅宿泊事業法)に取り組む中、2018年10月に発生した保育園での細菌性赤痢集団感染では、感染者数が36人と大規模だったため、関係部署と連携して保育園施設の消毒等感染対策について指導を行うとともに、休園のご協力を願いました。新型コロナウイルス感染症は、2020年2月には区内でも感染者が発生し、3月からは毎朝保健所で短時間の連絡会を開催するようになりました。連絡会には企画経営や危機管理を所管する部署の課長、係長が出席して、保健所と情報共有を図るとともに、保健所業務支援のため職員体制や業務執行体制に全庁的な協力をいただきました。健康危機管理は組織で行うものであり、個々の職員に過剰な負荷が生じないように運営しなければいけないことを実感しています。新型コロナウイルス感染症発生から約3年が経過し、初期に対応した職員(保健師)に過剰な負荷がかかっていたことが明らかになり、次の健康危機発生時の対応に活かせるよう今回の対応を検証する必要があります。

キャリアを振り返って

私は採用時、特別区の保健所に課長代理級の医師として配属されました。当時は区内に課長代理級医師が私以外に2人おり、仕事のことも気軽に相談できる環境でした。また、保健所には所長と課長の2人の上司(医師)がいらしたので、日々の業務を通じて指導を受けることができました。今も保健所で仕事を続けていられるのは、この時の仲間や上司の支えがあったからだと確信しています。現在も東京都では、課長代理級医師の研修会が毎月開催されています。当時の私も、この会で仲間と情報共有したり、時には職場の悩みを聞いてもらったりと、公衆衛生医師としてモチベーションを維持するために大切な場になっていました。このように、公衆衛生医師として様々な経験ができる職場に恵まれた東京都で、あなたも働いてみませんか。

キャリアパス

キャリアパス

採用時期

随時(採用時期は応相談)

応募資格

医師免許取得者で臨床研修を修了した方(50歳位まで)

勤務場所

東京都、特別区(23区)、八王子市及び町田市の保健所又は本庁等

配属先

職員の配置状況、通勤事情等※に応じて決定します。

※概ね片道1時間半まで。ただし、都外に住居がある場合はそれ以上となる場合があります。

採用時の身分

東京都、特別区(23区)、八王子市又は町田市の常勤職員(地方公務員)として採用されます。なお、採用時は、原則として課長代理(係長)級医師として採用されます。

異動

数年ごとに異動があり、幅広い経験を積んでいただくことになります。なお、島しょ地域への配属については、転居を伴い生活に関わるなど特殊性があるので、本人の意向を配慮しています。

勤務条件等(各自治体の条例等による)

給 与 …年収(税込) 医歴5年:約890万円、10年:約1,000万円
通勤手当、扶養手当等の各種手当あり
(参考)課長級:約1,200万円、部長級:約1,500万円

勤務時間 …1日7時間45分(週38時間45分)

休 日 …土・日曜日、祝日及び年末年始
ただし、緊急時は休日出勤の場合があります。

休 暇 …年次有給休暇(年間20日、1時間単位での取得も可能)、
夏季休暇(5日)、慶弔休暇など

妊娠・出産・育児に関する制度等 …以下のような休暇等制度があります。
(都の制度を一部抜粋)

休暇等制度	取得可能な期間等
妊娠出産休暇	産前産後16週間以内
育児(育児休業)	生後3歳に達するまで
育児時間	生後1歳3か月未満
子どもの看護休暇	中学校就学の始期に達するまで
部分休業	小学校就学の始期に達するまで
介護時間	1日2時間以内
介護休暇	引き続き6か月において必要と認められる期間(更新制度あり)

Q 東京都で働く公衆衛生医師の人数を教えてください。

A 2022年4月1日現在、東京都・特別区(23区)・八王子市・町田市保健所合わせて98名です。東京都に34名、特別区・八王子市・町田市保健所に64名の公衆衛生医師が配置されています。

Q 現職医師の出身大学を教えてください。

A 2022年4月1日現在、出身大学は都内13大学をはじめ、48大学と全国各地にわたっています。

Q 勤務地の希望は聞いてもらえますか?

A 通勤要件等はできる限り考慮しますが、勤務先については業務内容等により決定します。また、数年ごとに異動があります。



Q 学会に参加することはできますか?

A 事前に所定の手続きを取って許可を得ることで、参加することができます。

Q アルバイトはできますか?

A アルバイトは地方公務員法により、原則禁止されています。

Q 勤務先によって、業務内容は異なりますか?

A 公衆衛生医師の業務は多岐にわたるため、配属先となる自治体ごとに組織や業務内容も異なります。様々な業務内容を経験していくことは、公衆衛生医師として必要な幅広い知識と視野を獲得するために、非常に重要であると考えています。

Q 初期臨床研修修了後すぐに公衆衛生医師になれますか?

A 初期臨床研修後すぐのご入職も可能です。実際に、初期臨床研修修了直後に入職した医師も活躍しています。

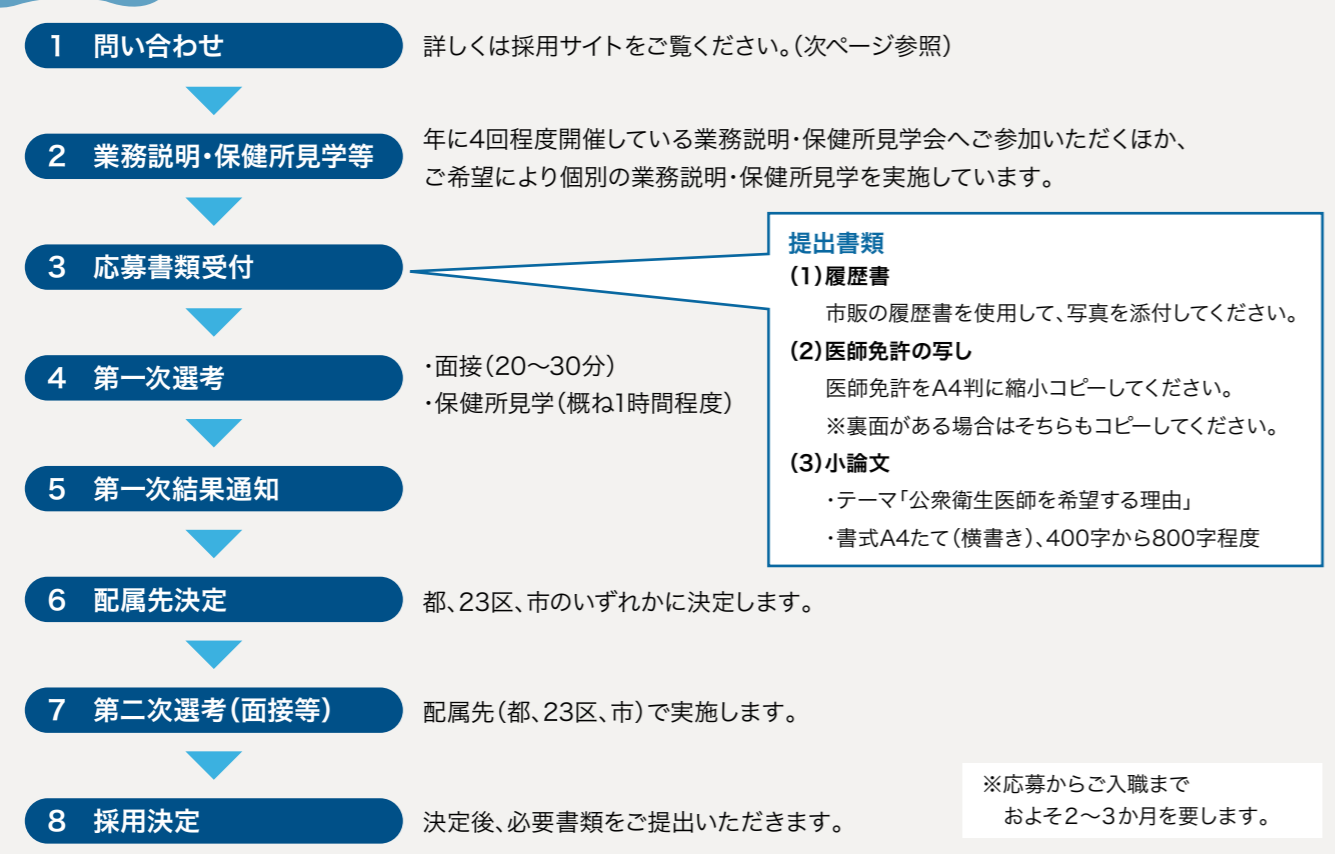
Q 遠方のため転居が必要ですが、職員住宅はありますか?

A 2023年度以降に入職される単身の課長代理級医師を対象に民間住宅の借り上げを行っています。(詳細はページ左下をご覧ください)

Q 専門分野について、有利・不利はありますか?

A 専門分野についての有利・不利はありません。公衆衛生医師には、医学に関する幅広い知識が求められますが、業務に必要な知識については、採用後、研修等により獲得可能です。また、どの診療科が専門であっても、臨床で培った経験・人脈等が役に立つ場合があります。実際、現職医師は、公衆衛生学教室出身だけでなく、臨床時の専門分野についても、幅広い診療科にわたっています。

応募から採用まで



職員住宅のご案内

2023年度以降に入職される単身の課長代理(係長)級医師を対象に、新たに民間住宅の借り上げを開始しました。

職員住宅は、各職場への通勤時間も考慮して借り上げており、使用料は住居ごとに設定され、一定割合減額されます。東京都以外にお住いの方も安心して入職をご検討ください。詳しくはお問い合わせください。(災害時等には、配属先で定める職務に従事する必要があります)



もっと知ってほしい 公衆衛生医師のこと

東京都では、公衆衛生医師の業務の特徴や魅力をより多くの方に知っていただくため、様々な取組を行っています。まずは、直接話を聞いてみませんか?

- 医学生や初期研修医を対象とした**研修病院説明会等への出席**
- 現役医師・研修医・医学生を対象とした**業務説明・保健所見学会の実施**
 - ・都内保健所やオンラインにて年4回程度開催しています。
 - ・当日は、現職医師との個別相談(希望制)も実施します。
- 個別の業務説明や保健所見学会を随時受付

イベントの開催情報等は、採用サイトへ随時掲載しておりますので、ぜひご確認ください!

東京都公衆衛生医師採用サイト

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kousyueisei-ishii-saiyou/

採用サイト・お問い合わせ先

お問い合わせや資料請求も受付中!

東京都公衆衛生医師募集

検索



〒163-8001
東京都新宿区西新宿2丁目8番1号
東京都福祉保健局 保健政策部 保健政策課
公衆衛生医師担当
電話:03-5320-4335(直通)
mail:S0000282@section.metro.tokyo.jp